

2025年度 資格取得 ガイドブック

受験料支援資格

経営系

情報処理系

メディア系

医療系

教養系

その他資格

メディア系

医療系

教養系



学校法人 電子開発学園

北海道情報大学
Hokkaido Information University

は じ め に

北海道情報大学 学習支援センター

大学は、かつてのようにモラトリウムを楽しむだけの機関では存続し得ない時代になりました。入学時の試験に勝ち抜けば出口（卒業時）での学力については問わないという時代は終わり、むしろ大学には出口保証すなわち実質的な能力の保証が問われています。日本の大学も本来のあるべき姿になりつつあるというべきでしょう。卒業に必要な単位を修得しただけで、入学から卒業までに伸ばした能力を、どのようにしたら認めてもらえるでしょう。

公にその能力を認めるものとして各種の資格や検定があり、社会に広く評価されているものが少なくありません。本学入学時には、多くの学生が資格の取得を目標に掲げています。在学中にその志を失うことなく、努力を継続して欲しいものです。資格取得を目指すことで大学生活が充実したものになり、資格を取得できれば、卒業時に該当する分野における能力の保証を得ることができます。

本学では、資格の取得を促すことは勿論、各種のコンテストを開催し、普段の授業で学んだことの応用・発展を通して、学生が主体的に実質的な能力を身につけることを期待しています。資格取得やコンテストというハードルを目指すことで、学習の動機付けがなされ、学習意欲が喚起され、学びの効果を高めることにつながります。

本学で取得に向けた講座を開講している資格、カリキュラム内に取得対策を盛り込んでいる資格など様々な資格がありますが、必ずしも本資格ガイドブックに掲載されたものすべてを十分にサポートしているわけではありません。個々の学生の努力、仲間との協力を活かして成功を引き寄せてください。もちろん、教職員はいつでもサポートをする準備はしています。

平成21年度からは、本学で認定した一定レベル以上の資格について、合格の暁には大学で受験料を補助することになっています。是非このような仕組みを活かして、自分の能力向上の努力を重ねてください。本ガイドブックがそのための一助となれば幸いです。

CONTENTS

p 1ー はじめに

2024年度 受験料支援資格

●経営系

- p 4ー 日商簿記検定試験（2級・3級）
- p 6ー リテールマーケティング（販売士）検定試験（2級・3級）
- p 8ー G検定
- p10ー データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）

●情報処理系

- p12ー ITパスポート試験
- p14ー 情報セキュリティマネジメント試験
- p16ー 基本情報技術者試験
- p18ー 応用情報技術者試験
- p20ー 情報処理技術者試験（ネットワークスペシャリスト試験）
- p22ー 情報処理技術者試験（データベーススペシャリスト試験）
- p24ー 情報処理安全確保支援士試験
- p26ー シスコ技術者認定 ネットワークアソシエイト
- p28ー Java SE 11 認定試験

●メディア系

- p30ー CGクリエイター検定（エキスパート）
- p31ー Webデザイナー検定（エキスパート）
- p32ー CGエンジニア検定（エキスパート）
- p33ー 画像処理エンジニア検定（エキスパート）
- p34ー マルチメディア検定（エキスパート）
- p35ー 2次元CAD利用技術者試験（2級）
- p36ー MIDI検定試験
- p38ー 映像音響処理技術者資格認定試験

●医療系

- p40ー 診療情報管理士認定試験
- p42ー 医師事務作業補助技能認定試験（ドクターズクラーク）
- p44ー 医療情報技師能力検定試験
- p46ー 診療報酬請求事務能力認定試験
- p48ー 健康食品管理士認定試験
- p50ー 第1種・第2種 ME 技術実力検定試験
- p52ー 登録販売者試験
- p54ー MDIC認定試験

●教養系

- p56ー 実用英語技能検定（1級・準1級・2級・準2級）
- p58ー TOEIC® L&R（スコア500点以上）
- p59ー TOEFL®（スコア60以上）
- p60ー ドイツ語技能検定試験（2級・3級・4級）
- p62ー 中国語検定試験（4級）
- p64ー 実用数学技能検定（1級・準1級・2級）
- p66ー 実用フランス語技能検定試験（4級以上）
- p68ー 韓国語能力検定【TOPIK I】（2級以上）
- p70ー 日本語検定（準2級以上）

その他資格（受験料支援対象外資格）

●メディア系

p72 ー VR技術者認定試験

●医療系

p74 ー 医療経営士

p75 ー バイオインフォマティクス技術者認定試験

●教養系

p76 ー 日本漢字能力検定（1級・準1級・2級・準2級）

経営系

日商簿記検定試験（2級・3級）

主催団体：日本商工会議所

試験実施期間

ペーパー試験：例年、2月下旬、6月上旬、11月中旬の日曜日に年3回実施しています。
ネット試験：受験場所によりますが、頻繁に実施している地域もあります。

申込

日商簿記2級・3級では、2020年12月から、ネット試験の導入が始まり受験しやすくなりました。ペーパー試験とネット試験のタイプがあります。
江別商工会議所の2025年度におけるペーパー試験の日程は次の通りです。

2025年度簿記検定実施日

施行回数	実施日	申し込み期間
第170回	2025年 6月 8日(日)	申し込み期間については希望受験地の商工会議所のホームページを確認してください。
第171回	2025年11月16日(日)	
第172回	2026年 2月22日(日)	

※ ペーパー試験とネット試験のスタイルは、異なります。ペーパー試験の申し込み期間や方法は、商工会議所によって異なるので、希望受験地の商工会議所のホームページを確認しましょう。試験のスケジュール、内容、及び実施場所については日本商工会議所の簿記のページ(<https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping>)を確認してください。

受験料

1級 8,800円（税込） 2級 5,500円（税込） 3級 3,300円（税込）
※2級と3級のネット試験（インターネット申込方式）の場合は別途、事務手数料が550円（税込）がかかります。

Webサイト <https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping/>

試験会場 全国各地にて実施

内容

2級

「商業簿記」および「工業簿記」
「商業簿記」には本支店会計や連結会計が、「工業簿記」には初歩的な原価計算が含まれます。

3級

「商業簿記」
企業外部との取引に関する記録や啓さんを行い、経営者や投資家などに対して正確で適切な決算書を作成するための基礎的な能力が問われます。

※試験時間は2級が90分、3級が60分、70%以上で合格

レベル

2級

株式会社における商業簿記及び工業簿記（初歩的な原価計算を含む）を修得し、財務諸表を読む力がつき企業の経営状況を把握できること。

3級

財務担当者に必須の基本知識を身につけ、小規模企業の経理事務に役立つ。経理関係書類の読み取りができ、取引先企業の経営状況を数字から理解できること。

学習の心得

いずれの級においても、テキスト等を用いてひと通り出題範囲を学習し、その上で知識を定着させるために問題集等を用いて、数多くの問題を解くことが大切です。テキストや問題集は数多く市販されているので、実際に書店で手にとり自分に合いそうなものを選ぶのがよいでしょう。その際、多くのテキスト・問題集を購入するよりも自分に合った1、2冊を繰り返し学習したほうが効果的です。

本学での対応科目・講座

3級

「簿記原理システム論Ⅰ・Ⅱ」（経営情報学部、1年次科目）

※大学の講義は、資格取得を主目的として開講しているわけではありません。
そのため、各自の追加的な学習が必要です。
勉強方法など相談したいことがあれば231研究室（松本）へ来てください。

全体の合格率・合格者数

級	実施回	受験者数	合格者数	合格率
2級	168（2024.11.17）	9,116	2,187	28.8%
	167（2024.06.09）	7,786	1,442	22.9%
	166（2024.02.25）	10,814	1,356	15.5%
3級	168（2024.11.17）	22,922	5,785	29.5%
	167（2024.06.09）	24,497	8,520	40.7%
	166（2024.02.25）	28,565	8,706	36.3%

経営系

リテールマーケティング(販売士)検定試験
(2級・3級)

主催団体：日本商工会議所

試験日 リテールマーケティング検定は2021年度より1級～3級すべてが「ネット試験方式」で随時施行することになりました。試験概要等の詳細については、各地施行商工会議所のホームページでご確認ください。

受験料 1級 8,800円 2級 6,600円 3級 4,400円

Webサイト <http://www.kentei.ne.jp/retailsales/>

試験会場 各地施行商工会議所へ問い合わせること。

内 容

5科目とも100点を満点とし、

(1) 5科目の平均点が70点以上 (2) 1科目ごとの特典が50点以上
以上2つの条件を満たした場合に合格となります。

正誤択一式10問、穴埋択一式10問で1科目20問。5科目合計100問です。
試験時間は3級60分、2級は70分(2021年度から変更)。

- (1) 小売業の類型 (2) マーチャンダイジング (3) ストアオペレーション
(4) マーケティング (5) 販売・経営管理

レ ベ ル

2級

マーケティング、マーチャンダイジングをはじめとする流通・小売業における高度な専門知識を身につけている。販売促進の企画・実行をリードし、店舗・売り場を包括的にマネジメントできる人材を目指す。幹部・管理職への昇進条件として活用している企業もある。

3級

マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業に必要な基礎知識・技能を理解している。接客や売り場作りなど、販売担当として必要な知識・技術を身につけた人材を目指す。流通・小売業に限らず、BtoCの観点から社員教育に取り入れている卸売業や製造業もある。

学習の心得 公式テキストや過去問題集が発売されているので使用することを薦めます。

本学での対応科目・講座

現在は開講の予定はないが、希望者が多ければ開講

全体の合格率・合格者数

全国2級合格率：2024.4.1～2024.12.31 57.3%
全国3級合格率：2024.4.1～2024.12.31 59.6%

MEMO

試験日 2025年は年間6回、1月・3月・5月・7月・9月・11月の開催を予定しています。

申込 以下のWebサイトから個人アカウントを取得して、申し込みします。
<https://www.jdla-exam.org/d/>

受験料 5,500円(学生・税込)

Webサイト <https://www.jdla.org/certificate/general/>

試験会場 オンライン実施(自宅受験)

内 容

試験時間：120分、小問160問程度、オンライン実施(自宅受験)

試験範囲：

- ◆人工知能とは
人工知能の定義、人工知能分野で議論される問題
- ◆人工知能をめぐる動向
探索・推論、知識表現とエキスパートシステム、機械学習、ディープラーニング
- ◆機械学習の概要
教師あり学習、教師なし学習、強化学習、モデルの選択・評価
- ◆ディープラーニングの概要
ニューラルネットワークとディープラーニング、活性化関数、誤差関数、正則化、誤差逆伝播法、最適化手法
- ◆ディープラーニングの要素技術
全結合層、畳み込み層、正規化層、プーリング層、スキップ結合、回帰結合層、Attention、オートエンコーダ、データ拡張
- ◆ディープラーニングの応用例
画像認識、自然言語処理、音声処理、深層強化学習、データ生成、転移学習・ファインチューニング、マルチモーダル、モデルの解釈性、モデルの軽量化
- ◆AIの社会実装に向けて
AIプロジェクトの進め方、データの収集・加工・分析・学習
- ◆AIに必要な数理・統計知識
AIに必要な数理・統計知識
- ◆AIに関する法律と契約
個人情報保護法、著作権法、特許法、不正競争防止法、独占禁止法、AI開発委託契約、AIサービス提供契約
- ◆AI倫理・AIガバナンス
国内外のガイドライン、プライバシー、公平性、安全性とセキュリティ、悪用、透明性、民主主義、環境保護、労働政策、その他の重要な価値、AIガバナンス

概 要 G検定とは、一般社団法人日本ディープラーニング協会（JDLA）が実施する、AI・ディープラーニングの活用リテラシー習得のための検定試験です。
AI・ディープラーニングに関わる全ての方が受験対象です。
AI・ディープラーニングについて体系的に学ぶことで、「AIで何ができて、何ができないのか」「どこにAIを活用すればよいか」「AIを活用するためには何が必要か」が理解でき、データを活用した新たな課題の発見やアイデアの創出が可能になる、デジタル施策の推進に自信が持てるようになるなど、あなたのビジネスやキャリアの可能性が飛躍的に広がります。

本学での対応科目・講座

情報システム学概論Ⅰ,Ⅱ

全体の合格率・合格者数

開催回	申込者	受験者数	合格者数	合格率
2022#1	7,287	6,760	4,198	62.10%
2022#2	6,853	6,398	3,917	62.22%
2022#3	8,135	7,502	4,964	66.17%
2023#1	7,824	7,150	4,705	65.80%
2023#2	3,389	3,052	2,075	67.99%
2023#3	4,900	4,518	3,106	68.75%
2023#4	3,488	3,309	2,398	72.23%
2023#5	5,576	5,330	3,662	68.71%
2024#1	3,464	3,291	2,398	72.87%
2024#2	5,844	5,527	3,760	68.03%
2024#3	3,252	3,044	2,236	73.46%
2024#4	4,381	4,140	3,080	74.40%
2024#5	5,189	4,917	3,689	75.03%
2024#6	7,276	6,850	5,027	73.39%

経営系

データサイエンティスト検定（リテラシーレベル）

主催団体：一般社団法人 データサイエンティスト協会

試験実施期間 3月・6月・11月

申込 以下のWebサイトから申し込み
<https://cbt-s.com/examinee/examination/datascientist.html>

受験料 学生：5,000円、一般：10,000円

Webサイト <https://www.datascientist.or.jp/decertification>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数個所で実施

内 容

本検定の取得により、データサイエンティストに必要なデータサイエンス力・データエンジニアリング力・ビジネス力について、それぞれ見習いレベルの実務能力や知識、また、数理・データサイエンス・AI教育のリテラシーレベルの実力を悠聖いることを証明することができます。

レベル 本検定の受験対象者は以下のような型を想定しています。

- ・データサイエンティスト初学者
- ・これからデータサイエンティストを目指すビジネスパーソン
- ・データサイエンティストに興味を持つ大学生や専門学校生

学習の心得 主催団体であるデータサイエンティスト協会が感修正している問題集、及び公式リファレンスブックがあります。それらを参考に学習すると良いでしょう。

本学での対応科目・講座

数学、統計学、情報系かの科目が関連します。

全体の合格率・合格者数

開催回	合格者数	合格率
第7回（2024年 6月実施）	929名	48%
第6回（2024年 3月実施）	1,089名	44%
第5回（2023年11月実施）	1,427名	38%
第4回（2023年 6月実施）	1,347名	44%
第3回（2022年11月実施）	1,088名	42%
第2回（2022年 6月実施）	1,453名	50%
第1回（2021年 9月実施）	927名	68%

ITパスポート試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

試験実施期間 CBT試験であるため、随時実施

申込 試験の申込みを行うには、以下のWebサイトで、利用者ID登録を行います。
<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>
利用者ID登録が完了すると、Webサイトで受験申込することができるようになります。
希望する受験会場を選び、受験できる日程を選んで登録します。

受験料 7,500円

Webサイト <https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内 容

職業人として情報機器及びシステムの把握や、担当業務の遂行及び情報化を推進するために、基礎的な知識が試験されます。

対象とされる内容はストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3つに分類されます。概ね、ストラテジ系（35%）、マネジメント系（20%）、テクノロジー系（45%）の比率で出題されます。

- （1）ストラテジ系：
情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念などの知識
- （2）マネジメント系：
システム開発やプロジェクトマネジメントのプロセスに関する基礎的な用語・概念などの知識
- （3）テクノロジー系：
情報の基礎理論、コンピュータシステムやネットワークに関する知識、オフィスツールの活用など幅広く網羅

令和4年4月実施分より、高等学校新学習指導要領における共通必修科目「情報Ⅰ」に基づいた内容となるように、擬似言語を用いたプログラミングの問題などが追加されます。

令和6年4月実施分より、生成AIに関する項目・近年の動向等を踏まえた用語例の問題が追加されます。

合格基準は、3分野それぞれ30%以上をクリアし、かつ3分野の総合得点が60%以上に達した場合に合格となります。

レベル

情報処理国家試験のなかでは、最も基本的な試験（レベル1と呼ばれる）です。本学の情報系科目を2年間学ぶと、この試験のかなりの範囲を網羅することになります。

学習の心得

試験には独特の傾向があり、過去の問題に十分取り組んでおかなければ容易には合格できません。情報処理分野のみならず、広く経営系（ストラテジ系）の知識も必要になるので、経営系の科目を履修することが活きてきます。

本学での対応科目・講座

情報系のほとんどの科目がこの資格試験の範囲に含まれますが、特に基礎となる科目は以下の通りです。

経営情報学部：コンピュータシステムⅠ、コンピュータシステムⅡ、IT戦略とマネジメントの基礎
医療情報学部：コンピュータシステムⅠ、コンピュータシステムⅡ、ITストラテジ、ITマネジメント
情報メディア学部：コンピュータ、情報メディア特別演習Ⅰ、情報メディア特別演習Ⅱ

全体の合格率・合格者数

全国での合格率

令和 6年度	： 49.7%
令和 5年度	： 50.3%
令和 4年度	： 51.6%
令和 3年度	： 52.7%
令和 2年度	： 58.8%
令和 元年度	： 54.3%

CBT試験について

- 試験会場では、パソコンを通して問題が出題され、パソコンで解答します。
- パソコンを利用する試験であるため、1回の試験での受験者が限定されます（20名程度）。
- 受験後、速やかに成績と可否を確認することができます。
- 毎月定期的に試験が実施されるため、都合のよい日程を選んで受験できます。
- 受験日3日前であれば、受験申込したWebサイトで試験日を延期変更することができます。

情報セキュリティマネジメント試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

試験実施期間 令和5年度よりCBT試験にて随時実施

申込 下記Webサイトよりご確認ください。
<https://www.ipa.go.jp/shiken/mosikomi/index.html>

受験料 7,500円

Webサイト <http://www.jitec.ipa.go.jp/sg/>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内容

情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して、情報セキュリティの脅威から組織を守るためのケーススタディによる出題を通して情報セキュリティ管理の実践力が問われます。

基本的なスキルが試されます。平成28年度から試験が開始されました。情報セキュリティに関する重点分野と、テクノロジー・マネジメント・ストラテジの関連分野から出題されます。

科目A・B計60問を120分で解答する（多肢選択式）。

科目A・B合計60%以上の得点で合格となります。

レベル ITスキルレベル（ITSS）共通キャリア・スキルフレームワーク（CCSF）レベル2相当。
 ITパスポート試験をステップアップしたものとされます。

本学での対応科目・講座

セキュリティ関連の科目が基礎となりますが、情報系の殆どの科目が関連します。

全体の合格率・合格者数

全国での合格率

令和6年度	：69.2%
令和5年度	：72.6%
令和4年度 秋	：52.0%
令和4年度 春	：61.2%
令和3年度 秋	：53.9%
令和3年度 春	：52.4%
令和2年度 秋	：66.6%
令和元年度 秋	：47.0%

MEMO

基本情報技術者試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

試験実施期間 令和5年度よりCBT試験にて随時実施

申込 下記Webサイトよりご確認ください。
https://www.ipa.go.jp/shiken/mousikomi/cbt_sg_fe.html

受験料 7,500円

Webサイト <https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/fe.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内 容

情報技術全般に関する基礎的な知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者としての知識・技能が要求されます。内容は以下のように、多岐にわたっています。範囲はITパスポート試験と同じですが、少しレベルが高くなります。

1. コンピュータシステムに関すること
①ハードウェア・ソフトウェア ②データベース ③ネットワーク
2. 情報セキュリティに関すること
3. データ構造及びアルゴリズムに関すること
4. ソフトウェア設計に関すること
5. ソフトウェア開発に関すること
6. マネジメントに関すること
①プロジェクトマネジメント ②サービスマネジメント
7. ストラテジに関すること
①システム戦略 ②経営戦略・企業と法務

科目A問題は、90分で60問（多肢選択式・四肢択一）。
科目B問題は、100分で20問を解答する（多肢選択式）。
科目Aと科目Bそれぞれ60%以上の得点で合格となります。

2023年度試験より、科目B（旧・午後試験）でのプログラミング言語選択が廃止され、擬示言語による出題に統一されます。

レベル

本学の情報系科目を2年間学ぶと、この試験のかなりの範囲を網羅することになります。しかし、合格はそれほど易しいものではありません。それだけに、ソフトウェア関連企業で評価されている資格です。ITパスポート試験はIT人材像レベル1に該当し、この基本情報技術者試験はレベル2に対応しています

学習の心得

試験には独特の傾向があり、過去の問題に十分取り組んでおかなければ容易には合格できません。知識を中心に試験をする科目A試験と、応用技術を試験する科目B試験。それぞれには得意不得意があると思いますので、不得意の方も伸ばす努力が必要です

本学での対応科目・講座

情報系のほとんどの科目がこの資格試験の範囲に含まれますが、特に基礎となる科目は以下の通りです。

経営情報学部：コンピュータシステムⅠ、コンピュータシステムⅡ、IT戦略とマネジメントの基礎
アルゴリズム基礎、アルゴリズムとプログラム設計

医療情報学部：コンピュータシステムⅠ、コンピュータシステムⅡ、ITストラテジ、ITマネジメント
情報メディア学部：コンピュータ

全体の合格率・合格者数

全国での合格率

令和 6年度	:	41.2%
令和 5年度	:	47.1%
令和 4年度 秋	:	35.6%
令和 4年度 春	:	34.6%
令和 3年度 秋	:	40.1%
令和 3年度 春	:	41.6%
令和 2年度 秋	:	48.1%
令和 元年度 秋	:	28.5%

応用情報技術者試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

試験実施期間 4月第3日曜日および10月第2日曜日

申込 下記Webサイトより申込み。
<https://www.ipa.go.jp/shiken/mousikomi/schedule.html>

受験料 7,500円

Webサイト <https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/ap.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内 容

基本戦略立案又はITソリューション・製品・サービスを実現する業務に従事し、独力で次のいずれかの役割を果たすことができる能力を試験します。

1. 企業経営や社会システムが直面する課題に対して、情報技術を活用した戦略を立案する
2. 信頼性・生産性の高いシステムを構築し、その安定的な運用サービスを実現する

対象とされる内容は以下のように、多岐にわたっています。範囲はITパスポート試験や基本情報技術者試験と同じですが、レベルが高くなり、IT人材像のレベル3に相当します。

- 1 経営戦略に関すること
- 2 情報戦略に関すること
- 3 戦略立案・コンサルティングの技法に関すること
- 4 システムアーキテクチャに関すること
- 5 サービスマネジメントに関すること
- 6 プロジェクトマネジメントに関すること
- 7 ネットワークに関すること
- 8 データベースに関すること
- 9 組込みシステム開発に関すること
- 10 情報システム開発に関すること
- 11 プログラミングに関すること
- 12 情報セキュリティに関すること
- 13 システム監査に関すること

午前問題は、150分で80問（多肢選択式・四肢択一）。

午後問題は、150分で11問中5問を解答する（記述式）。ただし、「情報セキュリティ」は必須で1問解答する。

午前、午後共に60%以上の得点で合格となります。

レベル

本学の情報系の科目を3年間学ぶと、午前問題のかなりの範囲を網羅することになります。基本情報技術者試験に比べて、各分野をさらに深く理解し身につけていることが要求されます。

基本情報技術者試験はIT人材像レベル2に該当し、この応用情報技術者試験はレベル3に対応しています。

学習の心得

試験には独特の傾向があり、過去の問題に十分取り組んでおかなければ容易には合格できません。午前試験は基本情報試験を少し難しくした問題になります。計算機科学の分野が基本情報技術より多くなります。

午後試験には、データベース、ネットワーク、アルゴリズム、セキュリティがよく出題されています。ほかに、システム分析、システム設計あるいはアルゴリズムなどの高い技術が要求されます。

本学での対応科目・講座

情報系のほとんどの科目が試験の範囲に含まれますが、特にこの資格取得を目的の一つにしている科目はありません。

全体の合格率・合格者数

全国での合格率

令和 6年度	秋：	28.5%
令和 6年度	春：	23.6%
令和 5年度	秋：	23.2%
令和 5年度	春：	27.2%
令和 4年度	秋：	26.2%
令和 4年度	春：	24.3%
令和 3年度	秋：	23.0%
令和 3年度	春：	24.0%

情報処理技術者試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

ネットワークスペシャリスト試験

試験実施期間 4月第3日曜日

申込 下記Webサイトより申込み。
<https://www.ipa.go.jp/shiken/mousikomi/schedule.html>

受験料 7,500円

Webサイト <https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/nw.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内容

高度IT人材として確立した専門分野をもち、ネットワークに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行うものを対象とした試験です。

ネットワークシステムを企画・要件定義・設計・構築・運用・保守する業務に従事し、次の役割を主導的に果たすとともに、下位者を指導します。

- ① ネットワーク管理者として、ネットワークサービス活用を含む情報システム基盤のネットワーク資源を管理する。
- ② ネットワークシステムに対する要求を分析し、効率性・信頼性・安全性を考慮した企画・要件定義・設計・構築・運用・保守を行う。
- ③ 情報セキュリティ含む情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守において、ネットワーク関連の技術支援を行う。

目的に適合したネットワークシステムを構築・維持するため、次の知識・実践能力が要求されます。

- ① ネットワーク技術・ネットワークサービスの動向を広く見通し、目的に応じた適用可能な技術・サービスを選択できる。
- ② 企業・組織、または業務システムの要求(情報セキュリティを含む)を的確に理解し、ネットワークシステムの要求仕様を作成できる。
- ③ 要求仕様に関連するモデリングなどの設計技法、プロトコル技術、信頼性設計、セキュリティ技術、ネットワークサービス、コストなどを評価して、最適な論理設計・物理設計ができる。
- ④ ネットワーク関連企業を活用して、ネットワークシステムの設計・構築・運用・保守ができる。

午前Ⅰは、50分で多肢選択式（四肢択一）問題30問（30問を解答）

午前Ⅱは、40分で多肢選択式（四肢択一）問題25問（25問を解答）

午後Ⅰは、90分で記述式問題3問（2問を解答）

午後Ⅱは、120分で記述式問題2問（1問を解答）

レベル

この試験は、経済産業省が定めているITスキル標準（ITSS）の共通キャリア・スキルフレームワークのテクニカルスペシャリストのレベル4の前提条件となっています。共通キャリア・フレームワークのレベル3に対応する応用情報技術者試験に合格あるいは合格できる知識・スキルを身に着けて、さらにネットワーク関連技術に関する知識・スキルを身に着けていることを要求されるので、本学では大学院レベルの試験とい

学習の心得

午前の問題は、応用情報技術者試験の午前にネットワークの高度な知識を問う問題が追加された内容になっています。多くのネットワークスペシャリストの参考書が出ていますので、1冊は手元に置いて、理解できるまで何度も復習することが必要です。午後の問題がⅠとⅡの二つからなり、どちらも過去問題を自力で7～8割程度とけるようにしておくことが大事です。理解できない内容は、他の参考書などを勉強することも必要になります。

本学での対応科目・講座

基礎知識に関しては、ネットワークやセキュリティ関連の科目が対応しますが、特に午後の問題は、より専門的になるため独自に学ぶ必要があります。大学院のネットワークプログラムの科目は、専門的な知識の一部に対応しています。

全体の合格率・合格者数

令和 6年度：	15.4%（1,704名）
令和 5年度：	14.3%（1,482名）
令和 4年度：	17.4%（1,649名）
令和 3年度：	12.8%（1,077名）
令和 2年度：	実施はありませんでした。
令和 元年度：	14.4%（1,707名）

情報処理技術者試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

データベーススペシャリスト試験

試験実施期間 10月第2日曜日

申込 下記Webサイトより申込み。
<https://www.ipa.go.jp/shiken/mousikomi/schedule.html>

受験料 7,500円

Webサイト <https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/db.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内 容

高度IT人材として確立した専門分野をもち、データベースに関係する固有技術を活用し、最適な情報システム基盤の企画・要件定義・開発・運用・保守において中心的な役割を果たすとともに、固有技術の専門家として、情報システムの企画・要件定義・開発・運用・保守への技術支援を行うものを対象とした試験です。

データ資源およびデータベースを企画・要件定義・設計・構築・運用・保守する業務に従事し、次の役割を主導的に果たすとともに、下位者を指導します。

- ① データ管理者として、情報システム全体のデータ資源を管理する
- ② データベースシステムに対する要求を分析し、効率性・信頼性・安全性を考慮した企画・要件定義・設計・構築・運用・保守を行う
- ③ 個別システム開発の企画・要件定義・開発・運用・保守において、データベース関連の技術支援を行う

高品質なデータベースを企画・要件定義・開発・運用・保守するため、次の知識・実践能力が要求されます。

- ① データベース技術の動向を広く見通し、目的に応じた適用可能な技術選択できる
- ② データ資源管理の目的と技法を理解し、データ部品の標準化・リポジトリシステムの企画・要件定義・開発・運用・保守ができる
- ③ データモデリング技法を理解し、利用者の要求に基づいてデータ分析を行い、正確な概念データモデルを作成できる
- ④ データベース管理システムの特性を理解し、情報セキュリティも考慮し、高品質やデータベースの企画・要件定義・開発・運用・保守ができる

午前Ⅰは、50分で多肢選択式（四肢択一）問題30問（30問を解答）

午前Ⅱは、40分で多肢選択式（四肢択一）問題25問（25問を解答）

午後Ⅰは、90分で記述式問題3問（2問を解答）

午後Ⅱは、120分で記述式問題2問（1問を解答）

レベル

この試験は、経済産業省が定めているITスキル標準（ITSS）の共通キャリア・スキルフレームワークのテクニカルスペシャリストのレベル4の前提条件となっています。共通キャリア・フレームワークのレベル3に対応する応用情報技術者試験に合格あるいは合格できる知識・スキルを身に付けて、さらにデータベース関連技術に関する知識・スキルを身に付けていることを要求されるので、本学では大学院レベルの試験といえます。

学習の心得

午前の問題は、応用情報技術者試験の午前にデータベースの高度な知識を問う問題が追加された内容になっています。多くのデータベーススペシャリストの参考書が出ていますので、1冊は手元に置いて、理解できるまで何度も復習することが必要です。午後の問題がⅠとⅡの二つからなり、どちらも過去問題を自力で7~8割程度とけるようにしておくことが大事です。理解できない内容は、他の参考書などを勉強することも必要になります。

本学での対応科目・講座

基礎知識に関しては、情報システムやデータベース関連の科目が対応しますが、特に午後の問題は、より専門的になるため独自に学ぶ必要があります。

全体の合格率・合格者数

令和 6年度：	17.2%	(1,744名)
令和 5年度：	18.5%	(1,664名)
令和 4年度：	17.6%	(1,486名)
令和 3年度：	17.1%	(1,268名)
令和 2年度：	15.8%	(1,031名)
令和 元年度：	14.4%	(1,591名)

情報処理安全確保支援士試験

主催団体：独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）

試験実施期間 4月第3日曜日および10月第2日曜日

申込 下記Webサイトより申込み。
<https://www.ipa.go.jp/shiken/mosikomi/schedule.html>

受験料 7,500円

Webサイト <https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/db.html>

試験会場 全国各地、札幌圏でも複数箇所で開催

内 容

サイバーセキュリティに関する専門的な知識・技能を活用して企業や組織における安全な情報システムの企画・設計・開発・運用を支援し、また、サイバーセキュリティ対策の調査・分析・評価を行い、その結果に基づき必要な指導・助言を行う者を、「情報処理安全確保支援士」として国家資格による登録が始まりました。

この試験はこの国家資格の認定に必要となり、従来の「情報処理スペシャリスト試験」が情報処理技術者試験から独立して実施されるものです。

午前Ⅰ問題は、90分で3問中2問回答（記述式）。
 午前Ⅱ問題は、120分で2問中1問回答（記述式）。
 午後問題は、150分で4問中2問回答（記述式）。

いずれも60%以上の得点で合格となります。

レベル ITスキルレベル（ITSS）共通キャリア・スキルフレームワーク（CCSF）レベル4相当
 従来の情報処理技術者試験「情報処理セキュリティスペシャリスト試験」が国家資格化したものです。

本学での対応科目・講座

セキュリティ関連の科目が基礎となりますが、情報系の殆どの科目が関連します。

全体の合格率・合格者数

令和 6年	秋：	15.1%（2,615名）
令和 6年	春：	19.3%（2,769名）
令和 5年	秋：	21.9%（3,284名）
令和 5年	春：	19.7%（2,394名）
令和 4年	秋：	21.1%（2,782名）
令和 4年	春：	19.2%（2,131名）
令和 3年	秋：	20.1%（2,359名）
令和 3年	春：	21.2%（2,306名）

MEMO

シスコ技術者認定 ネットワークアソシエイト

主催団体：シスコシステムズ社

試験実施期間 CBT試験であるため、随時実施

申 込 下記シスコのサイトより申込み（200-301 CCNA）

受 験 料 33,600円（税抜）

Webサイト http://www.cisco.com/c/ja_jp/training-events/training-certifications/certifications/associate/ccna.html

試験会場 ピアソンVUEの試験会場またはオンライン試験

内 容

シスコ技術者認定ネットワークアソシエイト（CCNA: Cisco Certified Network Associate）は、ネットワーク機器最大手のシスコ社が認定したネットワーク運用に関する資格です。CCNAに認定されると、WANでのリモートサイト接続の実装と確認を含め、中規模ネットワークの導入、設定、運用、およびトラブルシューティングを行う能力を備えていることが証明されます。

試験時間は120分です。試験で使用されている出題方式は、選択問題と入力問題が中心ですが、シスコルータのシミュレータに対して実際に設定を行うシミュレーション問題なども出題されており、事前に練習問題や過去問題などで傾向を把握しておく必要があります。認定有効期間は3年となっており、3年ごとに新しい試験での再受験が必要です。

レ ベ ル 6段階で構成されるシスコ技術者認定の2段階目に該当し、研修レベルまたは基本レベルとされていますが、それほど簡単ではありません。多くの学生にとっては、本学の情報系科目を受講するだけでは合格は難しく、資格用の対策が必要となります。シスコ製のルータやスイッチなどの操作技術や管理技術を満たしている事の認証を目的としたベンダー資格ですが、シスコ製ネットワーク機器は世界のトップシェアであること、ネットワーク機器の操作や管理のためには基本的なネットワークの知識も必要であること、そして、世界共通の資格であることから、ネットワークの現場で働く技術者や管理者にとっては有名な資格試験です。

学習の心得

シスコ製のルータやスイッチの使用方法を理解することも必要ですが、ネットワークの基礎知識、ネットワークに関するハードウェアの知識も問われます。大きく分類して以下の範囲を含んでいます。詳細はシスコWebページで確認してください。

- ネットワークの基礎
- ネットワークアクセス
- IPコネクティビティ
- IPサービス
- セキュリティの基礎
- 自動化とプログラマビリティ

本学での対応科目・講座

本学で完全に対応している科目は以下の通りです。

経営情報学部：ネットワークの構成と管理

以下の科目は参考になります。

経営情報学部：システム開発基礎Ⅱ、ネットワークとセキュリティⅠ、
ネットワークとセキュリティⅡ

情報メディア学部：インターネットの仕組み、インターネットセキュリティの技術

Java SE 11 認定試験

主催団体：Oracle University Japan

試験実施期間 CBT試験であるため、随時実施

申込 下記オラクルのサイトより申込み

受験料 Java SE Bronze：13,300円
Java SE 11 Programmer I：37,730円
Java SE 11 Programmer II：37,730円
Upgrade OCJP Java 6,7&8 to Java SE 11 Developer：37,730円

Webサイト <https://www.oracle.com/jp/education/certification/javase-11-certification/>

試験会場 ピアソンVUEの試験会場またはオンライン試験

内容

Javaを開発提供しているオラクル社が公式に認定している資格試験です、この試験を取得することで、業界標準に準拠した高度なスキルを証明します。言語未経験者向けの入門資格であるBronze、基本的なプログラミング知識を有し、上級者の始動の物とで開発作業を行うことが出来る開発初心者向け資格であるSilver、そして、設計者の意図を正しく理解して独力で機能実装が行えるちゅう上級者向け資格であるGoldの3つのレベルがあります。

BronzeまたはSilverを取得するためには対応する試験に合格するだけでよいですが、Goldを取得するためには、既にSilver認定試験（SE11、SE8、SE7）、または、旧バージョンのGold認定資格（SE8、SE7、SE6）を保有しているという条件で、Silver保有の真摯試験、または、Gold保有の移行試験に合格する必要があります。

Bronze：Java SE Bronzeは、65分で60問（選択問題）。合格ラインは60%

Silver：Java SE 11 Programmer I は、180分で80問（選択問題）。合格ラインは63%

Gold（新規）：Java SE 11 Programmer II は、180分で80問（選択問題）。合格ラインは63%

Gold（移行）：Upgrade OCJP Java 6,7&8 to Java SE 11 Developerは、180分で80問（選択問題）。合格ラインは61%

レベル

Bronzeは初級、Silverは中級、Goldは上級で、Bronzeはプログラミング入門者用のエントリー資格という扱いですが、それほど簡単ではありません。多くの学生にとっては、本学のJavaプログラミング系科目を受講するだけでは合格は難しく、問題集、参考書、学習サイトなどを利用した資格用の対策が必要となります。また、Bronzeは国内ですが、SilverとGoldは世界共通の資格です。

学習の心得

Bronzeは、基本文法やオブジェクト指向に関する出題で、初級資格です。大きく分類して以下の範囲を含んでいます。詳細はオラクルWebページで確認してください。

- Java言語のプログラムの流れ、データ宣言と仕様、演算子と分岐文、ループ文、オブジェクト指向の概念、クラスの定義とオブジェクトの仕様、継承とポリモフィズム

Silverは、細かい仕様や実装に関する出題で、中級資格です。大きく分類して以下の範囲を含んでいます。詳細はオラクルWebページで確認してください。

- Javaテクノロジーとい開発環境についての理解、簡単なJavaプログラムの作成、Javaの基本データ型と文字列の操作、演算子と制御構造、配列の操作、クラスの宣言とインスタンスの使用、メソッドの作成と使用、カプセル化の適用、継承による実装の再利用、インターフェースによる抽象化、例外処理、モジュール・システム

Goldは設計や本格的な実装に関する出題で、上級資格です。大きく分類して以下の範囲を含んでいます。詳細はオラクルWebページで確認してください。

- Javaの基礎（新規のみ）、例外処理とアサーション、Javaのインターフェース、汎用とコレクション（新規のみ）関数型インターフェースとラムダ式、JavaストリームAPI（新規のみ）、ストリームに対するラムダ演算、モジュール型アプリケーションに移行する、モジュール型アプリケーションにおけるサービス、並列処理（新規のみ）、並列ストリーム、I/O（基本およびNIO2）、Java SEアプリケーションにおけるセキュア・コーディング（新規のみ）、JDBCによるデータベース・アプリケーション（新規のみ）、ローカライズ（新規のみ）、アノテーション（新規のみ）、モジュールの理解（移行のみ）、ラムダ式の理解（移行のみ）

本学での対応科目・講座

本学で対応している科目は以下のとおりですが、完全ではないため、独自に学ぶ必要があります。

経営情報学部：プログラミング入門、プログラミング基礎、Javaプログラミング
情報メディア学部：プログラミング入門、プログラミング基礎

メディア系

CGクリエイター検定 エキスパート

主催団体：CG-ARTS協会

- 試験日** 予定 前期：7月 後期：11月
- 申込** 予定 前期：4月～6月 後期：9月～10月
- 受験料** エキスパート6,700円（ベーシック5,600円：支援対象外）
- Webサイト** <http://www.cgarts.or.jp/kentei/about/multimedia/index.html>
- 試験会場** 20都道府県で実施。札幌にも試験会場あり。

内 容

映画・アニメーション・ゲーム・CMなどのCG映像の制作において、一定条件(シナリオ・絵コンテ・日程・予算など)をもとに、映像表現技術やCG理論の知識、CGソフトウェアを効果的に用いる能力が求められます。

エキスパート

3次元CGと映像制作に関する専門的な理解と、3次元CG映像の制作に知識を応用する能力を測ります。

ベーシック

2次元CGと3次元CG、デザインに関する基礎的な理解と、CGの静止画制作に知識を利用する能力を測ります。

エキスパート、ベーシックとも選択式

レ ベ ル

ベーシックは本学学生でも取得可能なレベルです。ただし、講義を受講するだけでは合格は難しく、実際に3DCGなどの映像コンテンツを制作するなどの実践的な経験を積んでおくことが望ましいです。エキスパートは難易度が上がり、実務経験がないと難しいレベルです。

学習の心得

エキスパート、ベーシックとも知識を問われる選択式問題です。専用テキストで学習することに加え、実践的な経験を積む必要があります。

本学での対応科目・講座

情報メディア学科の3DCG演習、ゲームCG演習などが関連しますが、ゼミナール等での専門性が必要となります。

全体の合格率・合格者数

CGクリエイター検定エキスパートの合格率

2024（前）：21.2%、2024（後）：26.0%
 2023（前）：23.5%、2023（後）：21.2%
 2022（前）：21.9%、2022（後）：20.3%
 2021（前）：20.8%、2021（後）：24.6%

メディア系

Webデザイナー検定 エキスパート

主催団体：CG-ARTS協会

- 試験日** 予定 前期：7月 後期：11月
- 申込** 予定 前期：4月～6月 後期：9月～10月
- 受験料** エキスパート6,700円（ベーシック5,600円：支援対象外）
- Webサイト** <http://www.cgarts.or.jp/kentei/about/multimedia/index.html>
- 試験会場** 20都道府県で実施。札幌にも試験会場あり。
- 内容**

各種Webサイトのデザインにおいて一定の条件（コンセプト・日程・予算など）のもとにコンセプトメイキング・製作・テスト・評価・運用を行うための、知識や技術が求められます。

エキスパート

Webサイトの企画・制作・運用に関する専門的な理解と、Webサイトのデザインに知識を応用する能力を測ります。

ベーシック

Webサイトの企画・制作・デザインに関する基礎的な理解と、Webページ制作に知識を利用する能力を測ります。

エキスパート、ベーシックとも選択式

- レベル** ベーシックは本学3年生でも十分取得できるレベルです。エキスパートは難易度が上がり、講義を聞けば合格できるものでなく、自分でWebサイトを構築した経験があるなどの実践的な経験がないと取得は難しいでしょう。

- 学習の心得** 過去問を中心に専用のテキストで勉強すること。その上で制作から運用までのプロセスを理解すること。自分でWebサイトを制作すること。

本学での対応科目・講座

本学で完全に対応している科目はありません。
メディアデザインの基礎演習、デザインエレメンツ・演習、ビジュアル構成・演習、特にWeb制作演習、Web制作プロジェクトなどは参考になります。エキスパート以上はゼミナールレベルの専門性が必要になります。

全体の合格率・合格者数

Webデザイナー検定エキスパートの合格率

2024（前）：40.0%、2024（後）：22.2%
2023（前）：42.4%、2023（後）：28.6%
2022（前）：54.3%、2022（後）：35.0%
2021（前）：43.7%、2021（後）：53.6%

メディア系

CGエンジニア検定 エキスパート

主催団体：CG-ARTS協会

- 試験日** 予定 前期：7月 後期：11月
- 申込** 予定 前期：4月～6月 後期：9月～10月
- 受験料** エキスパート6,700円（ベーシック5,600円：支援対象外）
- Webサイト** <http://www.cgarts.or.jp/kentei/about/multimedia/index.html>
- 試験会場** 20都道府県で実施。札幌にも試験会場あり。

内容

産業や学術分野のさまざまな領域において、一定の条件（開発目標・システム環境・予算・作業工程など）のもと、ソフトウェアや関連するハードウェア、システムの開発ができる能力が求められます。

エキスパート

CGの技術に関する専門的な理解と、ソフトウェアやハードウェア、システムの開発に知識を応用する能力を測ります。

ベーシック

CGの技術に関する基礎的な理解と、プログラミングなどに知識を利用する能力を測ります。

エキスパート、ベーシックとも選択式

- レベル** ベーシックは本学学生でも取得可能なレベルです。ただし、講義を受講するだけでは合格は難しく、実際に画像を構築するなどの実践的な経験を積んでおくことが望ましいです。エキスパートは難易度が上がり、実務経験がないと難しいレベルです。

- 学習の心得** エキスパート、ベーシックとも知識を問われる選択式問題です。専用テキストで学習することに加え、実践的な経験を積む必要があります。

本学での対応科目・講座

情報メディア学科：2年次科目 3DCG演習
3年次科目 CGプログラミング、画像情報処理
上記科目が関連していますが、ゼミナール等での専門性が必要となります。

全体の合格率・合格者数

CGエンジニア検定エキスパートの合格率

2024（前）：32.1%、2024（後）：45.7%
2023（前）：33.2%、2023（後）：23.9%
2022（前）：29.4%、2022（後）：29.4%
2021（前）：43.7%、2021（後）：32.6%

メディア系

画像処理エンジニア検定 エキスパート

主催団体：CG-ARTS協会

- 試験日** 予定 前期：7月 後期：11月
- 申込** 予定 前期：4月～6月 後期：9月～10月
- 受験料** エキスパート6,700円（ベーシック5,600円：支援対象外）
- Webサイト** <http://www.cgarts.or.jp/kentei/about/multimedia/index.html>
- 試験会場** 20都道府県で実施。札幌にも試験会場あり。

内容

産業や学術分野のさまざまな領域において、一定の条件（開発目標・システム環境・予算・作業工程・コストなど）のもと、ソフトウェアや関連するハードウェア、システムの開発ができる能力が求められます。

エキスパート

画像処理の技術に関する専門的な理解と、ソフトウェアやハードウェア、システムの開発に知識を応用する能力を測ります。

ベーシック

画像処理の技術に関する基礎的な理解と、プログラミングなどに知識を利用する能力を測ります。

エキスパート、ベーシックとも選択式

- レベル** ベーシックは本学学生でも取得可能なレベルです。ただし、講義を受講するだけでは合格は難しく、実際に画像を構築するなどの実践的な経験を積んでおくことが望ましいです。エキスパートは難易度が上がり、実務経験がないと難しいレベルです。

- 学習の心得** エキスパート、ベーシックとも知識を問われる選択式問題です。専用テキストで学習することに加え、実践的な経験を積む必要があります。

本学での対応科目・講座

情報メディア学科の画像情報処理などが関連しますが、ゼミナール等での専門性が必要となります。

全体の合格率・合格者数

画像処理エンジニア検定エキスパートの合格率

2024 (前)：21.0%	2024 (後)：32.8%
2023 (前)：42.7%	2023 (後)：29.0%
2022 (前)：38.6%	2022 (後)：32.3%
2021 (前)：32.6%	2021 (後)：22.2%

メディア系

マルチメディア検定 エキスパート

主催団体：CG-ARTS協会

試験日	予定 前期：7月 後期：11月
申込	予定 前期：4月～6月 後期：9月～10月
受験料	エキスパート6,700円（ベーシック5,600円：支援対象外）
Webサイト	http://www.cgarts.or.jp/kentei/about/multimedia/index.html
試験会場	20都道府県で実施。札幌にも試験会場あり。
内容	

コンピュータや周辺機器、インターネットを活用し、デジタルコンテンツ、携帯端末、知的財産権・マルチメディアの社会応用などに関する幅広い知識を測ります。

エキスパート

マルチメディアを用いたネットワーク技術・コミュニケーション技術・プレゼンテーション技術についての専門的な理解と、Webサイトやシステム、製品開発のビジネスに知識を応用する能力を測ります。

ベーシック

マルチメディアの扱い方とインターネットを用いたコミュニケーション技術に関する基礎的な理解と、多様な生活の場面で知識を利用する能力を測ります。

エキスパート、ベーシックとも選択式

レベル

本学学生でも十分取得可能なレベルです。
ベーシックはデジタルコミュニケーションに関する基礎的な用語を理解できていなければなりません。エキスパートは、マルチメディアについての全般的な知識を、コンテンツ制作やWebサイト構築などに活用することができる知識が要求されます。

学習の心得

インターネットの利用やサービス、メディア機器など日常生活を取り巻くITに目を向け、理解をしておく必要があります。また、ホームページには過去の問題サンプルもあるので取り組んでおくといいでしょう。専門のテキストで勉強することも大切です。

本学での対応科目・講座

ICT入門、webプログラミング演習、メディア技術演習、コンピュータ、3DCG演習、映画基礎演習、ビジュアル構成演習、IOT時代のセキュリティ、インターネットの仕組み、音声情報処理など、情報メディア学科で学ぶ広い範囲の知識が必要となります。

全体の合格率・合格者数

マルチメディア検定エキスパートの合格率

2024 (前)：26.3%	2024 (後)：23.0%
2023 (前)：23.0%	2023 (後)：20.2%
2022 (前)：24.8%	2022 (後)：41.7%
2021 (前)：28.1%	2021 (後)：43.1%

メディア系

2次元CAD利用技術者試験

主催団体：一般社団法人 コンピュータ教育新興協会

試験実施期間 申込手続き完了次第随時実施（CBT）
2025年度は、2025年4月4日（金）～2026年3月31日（火）

申 込 Webにて随時受付中
2025年度は、2025年4月1日（火）～2026年3月15日（火）

受 験 料 6,050円（税込）

Webサイト <http://www.acsp.jp/cad/>

試 験 会 場 全国各地（札幌にも試験会場あり）

内 容

専門的なCAD利用技術者の育成を目的とする資格試験で、2級試験は2次元系のCADシステムを利用する上での知識を問う筆記試験(多肢選択)です。CADの実技試験はありませんがCADによる製図に習熟していることを前提として出題されています。

レ ベ ル 大学等においてCADシステムを利用した半年以上の講義を聴講し実習した方、CADシステムを利用する企業において設計・製図業務や営業・販売業務に従事した実務経験を有する方を受験者に想定しています。

学習の心得 本学の講義『図形科学の基礎』で図形科学の基礎と製図理論を学び、CADシステムの操作実技を学べば、知識と実技は充分です。試験対策として専用テキストで学習すれば合格できます。日本の「ものづくり」を支える製造企業でのCADによる設計・製図や設計事務所等サービス業でのCADデザインを職業として希望する方に適しています。

本学での対応科目・講座

情報メディア学科：2年次科目 図形科学の基礎

全体の合格率・合格者数

2次元CAD利用技術者試験（2級）合格率

2023：54.9%、2022：52.4%、2021：52.3%、2020：55.7%、
2019：49.2%、2018：50.2%、2017：54.1%、2016：53.3%

メディア系

MIDI検定試験

主催団体：一般社団法人 音楽電子事業協会

試験日 【参考】※詳細はWebサイトで確認してください。
 1級試験 2025年8月8日（金）～8月18日（月）
 2級1次試験 2025年12月7日（日）
 2級2次試験 2026年2月14日（土）～2026年2月16日（月）
 3級試験 2025年12月7日（日）

申込 詳細はWebサイトで確認してください。

受験料 【参考】※詳細はWebサイトで確認してください。
 1級 19,800円（税込）
 2級2次 13,200円（税込）
 2級1次 6,050円（税込）
 3級 3,850円（税込）※支援対象外

Webサイト <https://www.midilicense.com/>

試験会場 全国MIDI検定試験実施協力校での団体試験、オンライン試験

内 容

1級

作曲家書き下ろしの未発表曲スコア（楽譜）を作賓に仕上げ、成果物を提出する実技試験。正確なMIDI編集技能や表現力と共に音楽を作品に仕上げる音響の知識・音楽性等を評価する。一次審査（MIDIデータ）および二次審査（オーディオCD）の2段階審査方式。

2級
2次

出題された課題曲を各自の音楽制作環境にてMIDIデータ入力と任意の音源で再生したオーディオファイルを作成して提出する実技試験と、その為に必要とされる制作に関する講義及び筆記試験をオンラインで実施する。合格ラインは合計80点以上（筆記試験20点、課題提出80点）。

2級
1次

シンセサイザーやエフェクトに関する知識・オーディオプロダクションに関する知識や著作権に関する知識を筆記試験で評価する。MIDI検定1・2・3級対応公式ガイドブック「ミュージッククリエイターハンドブック」より出題。合格ラインは100点満点中80点以上。

3級

実際の音楽制作現場で必要とされるコンピュータや、DAWの知識・楽典やデジタルオーディオに関する知識を筆記試験で評価する。MIDI検定1・2・3級対応公式ガイドブック「ミュージッククリエイターハンドブック」より出題。合格ラインは100

レベル

1級

1級は専らDAWソフトウェアを使用する実技能力審査です。ここでは、音楽を再現するための正確なMIDI情報操作スキルのほかに、MIDIによる音楽表現能力も試されます。つまり、クリエイティブにMIDIを使いこなすスキルが必須です。よって、1級はプロレベルのMIDI情報処理能力および音楽表現力を証明することが可能です。

2級
2次

2級の1次および2次の筆記試験は選択式問題で、過去問や専用テキストで対策可能です。また、2次試験のMIDI打ち込み課題は、楽譜の情報を適切にMIDI情報及びオーディオ情報に変換する力が試されます。楽譜の読解力とDAWソフトウェアでの正確なMIDI情報入力スキルの習得が必須です。

3級

3級の筆記試験は、MIDIに関する広範囲な基礎知識を問うための選択式問題です。過去問や専用テキストを基に勉強することで、比較的容易に取得可能です。また、3級はMIDI企画について基礎を体系的に学び、理解を深める上で最適なグレードです。

学習の心得

筆記試験については、公式ガイドブック「ミュージッククリエイターハンドブック」より出題されますので、このハンドブックや公式サイトの過去問題を使い学習していくと良いでしょう。

本学での対応科目・講座

デジタルサウンド、芸術演習（音楽）

全体の合格率・合格者数

これまでの累計平均

1級 33.64% 2級1次 50.74% 2級2次 39.84% 3級 67.19%

メディア系

映像音響処理技術者資格認定試験

主催団体：一般社団法人 日本ポストプロダクション協会

試験日 2025年6月1日（日） 年1回開催

申込 2025年3月3日（月）～4月30日（水）

受験料 5,500円（税込）

Webサイト <https://www.jppanet.or.jp/certification-exam>

試験会場 全国約40会場

内容

映像・音響産業に従事するうえで必要とされる映像音響処理技術について、基礎知識の習熟度を試験によって判定します。
四者択一のマークシート形式で、60%以上の特典で合格。

レベル 学生でも十分取得可能なレベルです。

学習の心得 「映像音響処理技術者資格試験問題集」の範囲から出題されるので、この問題集や公式サイト過去の問題を使い学習していくと良いでしょう。
補助教材として、日本ポストプロダクション協会発酵の技術書「ポストプロダクション技術マニュアル」と「ポストプロダクション技術用語」もあります。

本学での対応科目・講座

映画基礎演習、アニメーション基礎演習、映像制作プロジェクト

全体の合格率・合格者数

毎年受験者の約70%が合格

MEMO

映像音響処理技術者資格認定資格

医療系

診療情報管理士認定試験

主催団体：一般社団法人 日本病院会

試験実施期間 2月第2日曜日（毎年1回）
第18回 2025年2月9日（日） ※2024年度参考

申 込 10月31日まで

受 験 料 10,000円（税込）

Webサイト 一般社団法人日本病院会 診療情報管理士通信教育：TOPページ
<https://www.jha-e.jp/>

試 験 会 場 全国16ヵ所 北海道は北海道情報大学にて実施

内 容

試験時間：専門分野13：10～14：10、基礎分野15：10～16：10

試験科目

- （1）基礎：医療概論、人体構造・機能論、臨床医学総論、臨床医学各論Ⅰ、臨床医学各論Ⅱ、臨床医学各論Ⅲ、臨床医学各論Ⅳ、臨床医学各論Ⅴ、臨床医学各論Ⅵ、臨床医学各論Ⅶ、臨床医学各論Ⅷ、医学・医療用語
- （2）専門：医療管理総論、医療管理各論Ⅰ、医療管理各論Ⅱ、医療管理各論Ⅲ、保険医療情報学、医療統計Ⅰ、医療統計Ⅱ、診療情報管理Ⅰ、診療情報管理論Ⅱ、診療情報管理Ⅲ、国際統計分類Ⅰ、国際統計分類Ⅱ

レ ベ ル 以上のように履修科目が広範囲にわたりますが、本学の3年前期までに上記試験対応科目の履修と病院実習の修了により、受験資格を得ることができます。病院実習は3年の夏休みに最低2週間実施しています。ほとんどの学生は本学科で初めて医学知識を学ぶことにより、医学用語の多さに戸惑いを感じるかもしれませんが、根気良く学ぶ姿勢が必要です。合格は努力次第であり、全国平均は例年約65%前後です。

学習の心得 診療情報管理士にとって、多くの履修科目の中でも特に解剖学・生理学・臨床医学等の基礎課程の知識の修得が必須です。特に疾病分類は診療情報管理士にとって高い専門性が要求されますが、急性期病院へのDPC/PDPS（Diagnosis Procedure Combination / Per-Diem Payment System）の導入によって、ますます適切な疾病分類能力が求められています。多くの履修科目の中でも、特に解剖学・生理学・臨床医学等の基礎課程における広い知識を修得することが、診療情報管理業務全般の理解度に影響します。また近年は莫大なデータを統計的手法で処理し、さまざまな意味づけをした二次利用もさかんに行われています。情報処理技術もあわせて学習することが将来の可能性拡大につながります。

認定機関：（一社）日本病日本病院会、（社）全日本病院協会、（社）日本医療法人協会、
（公社）日本精神科病院協会、（公財）療研修推進財団

本学での対応科目・講座

医学医療科目：医学概論、解剖学、生理学、医学用語概説、臨床医学Ⅰ～Ⅵ、病理学、医学用語概説

診療情報管理科目：病院管理論、医療事務総論、医療制度論、医療情報学概論、医療統計学Ⅰ・Ⅱ、医療安全管理学Ⅰ、診療情報管理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、国際医療統計分類Ⅰ・Ⅱ

病院実習：2週間（8月～9月の夏休み期間内）

全体の合格率・合格者数

令和 5年度	受験者総数	2,310名	合格者数	1,682名	合格率	72.8%
令和 4年度	受験者総数	2,457名	合格者数	1,622名	合格率	66.0%
令和 3年度	受験者総数	2,625名	合格者数	1,750名	合格率	66.7%
令和 2年度	受験者総数	2,800名	合格者数	1,748名	合格率	62.4%
令和 元年度	受験者総数	3,169名	合格者数	1,961名	合格率	61.9%
平成30年度	受験者総数	3,044名	合格者数	1,594名	合格率	52.4%
平成29年度	受験者総数	3,868名	合格者数	2,564名	合格率	66.3%

そ の 他

診療情報管理士をめぐる昨今の医療情勢

平成12年4月診療録管理体制の点数化やその後の施設基準（亜急性期入院医療管理料、臨床研修病院）によって診療録管理体制が要件項目となり、更には日本医療機能評価機構の病院評価により、各医療機関では診療情報管理部門の新設や業務内容も充実しつつあり、また、診療情報管理士の教育機関も大学18校、専門学校42校にのびます。

平成19年4月第5次医療法改正によって「患者への医療に関する情報提供の推進」が提示され、患者はインターネット上から情報を見ることができるようになりました。医療機関は多様な情報を都道府県に報告することが義務づけられ、項目の中には「死亡率、再入院率、疾病別・治療行為別・平均在院日数、治療結果に関する分析など診療情報管理士が関与する情報が含まれ、その専門性が求められています。

また、H20年4月からDPC施行病院の要件として診療録管理体制加算の取得に加え、コーディングの質を適正化するための委員会を設置し、かつその委員として診療情報管理士の参加が、必須条件となりDPCの分析や医療の質の評価・公表等の推進には、情報管理者として診療情報管理士が従事しています。

近年、電子カルテの導入により診療情報が収集しやすくなり、大量の医療情報が蓄積されています。医療ビッグデータ活用には、人工知能（AI）やICTの利用が進み、診療情報管理士には高い専門知識と技術が求められています。

医療系

医師事務作業補助技能認定試験 (ドクターズクレーク)

主催団体：厚生労働省認可 一般財団法人 日本医療教育財団・公益社団法人全日本病院協会

試験実施期間 毎月

申込 一般財団法人 日本医療教育財団（当該試験日の1か月前より1週間前まで）

受験料 10,560円（税込）

Webサイト <http://www.jme.or.jp/exam/dc/index.html>

試験会場 在宅試験
インターネット試験（IBT方式・試験管による監視あり）

内 容

試験は学科と実技の2つから構成されています。

学科 医師事務作業補助基礎知識／入力選択（○×・択一）方式／60問／50分

実技 医療文書作成／入力・選択（択一）方式／4症例／70分

具体的な内容は以下の通りです。

学科

1. 医療関連法規
医療法、医師法、保健師助産師法など
2. 医療保障制度
健康保険法、国民健康保険法など
3. 医学一般
人体の構造・組織・器官、診断と治療、医療用語など
4. 薬学一般
医療品医療機器法、薬物療法
5. 医療と診療録
診療録の定義と関連法規、電子カルテシステム（オーダリングシステム）
6. 医師事務作業補助業務
個人情報保護法、代行入力業務、文書作成業務など
7. 病院管理
安全管理

実技

医師事務作業補助業務
医療文書（各種診断書・証明書・申請書）作成業務

レベル

医療事務作業補助業務に従事する者の有する知識および技能の程度を本試験により評価します。つまり、医師が行う書類作成の補助を行う上で医学・薬学の知識はもちろん医療制度や各種法律についての知識が備わっていることが求められます。文書のとりまとめと作成に関する日本語の読解能力や文書作成能力も問われることとなります。

学習の心得

本学での対応科目・講義の中で学んだ内容をさらに発展させて勉強することで資格を取得することができます。例えば次のような講義が開講されています。医学概論（１年）、臨床医学総論（１年）、解剖学（１年）、医療事務総論（１年）、医学用語概説（２年）、医療制度論（２年）、病院管理論（２年）、病院情報システム概説（３年）など。

また、文章の読解力や文書作成の能力も問われますので、基礎教養科目も重要になります。

本学での対応科目・講座

医学概論（１年）、臨床医学総論（１年）、解剖学（１年）、医療事務総論（１年）、臨床医学Ⅰ・Ⅱ（２年）、医学用語概説（２年）、医療制度論（２年）、病院管理論（２年）、薬理学（２年）、診療情報管理学Ⅰ・Ⅱ（２年）、臨床医学Ⅲ（２年）、臨床医学Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ（３年）

全体の合格率・合格者数

合格率等は公表されていませんが、平均的に６０％前後の合格率といわれています。午前の学科は合格点にとどく学生は多いですが、午後の実技は実務に沿った内容となりますので、問題集などでの試験対策がより必要となります。

医療系

医療情報技師能力検定試験

主催団体：日本医療情報学会 医療情報技師育成部会

試験日 2025年8月24日（日）

申込 医療情報技師育成部会のWebサイトから各自申し込んでください ※2024年度参考
4/1（月）～6/20（木）正午厳守
6/21（金）15：00までに入金を完了してください。

受験料 15,000円（消費税込） 科目合格者、受験料：13,000円
認定証および認定カード交付料 無料

Webサイト <http://www.jami.jp/jadite/new/index.html>

試験会場 北海道、宮城県、東京都、新潟県、石川県、愛知県、大阪府、岡山県、広島県、香川県、福岡県、鹿児島県、沖縄県

内容

保健医療福祉専門職の一員として、医療の特質をふまえ、最適な情報処理技術にもとづき、医療情報を安全かつ有効に活用・提供することができる知識と技術および資質を有することが求められています。

認定試験は、「医学・医療」・「医療情報システム」・「情報処理技術」の3領域からなります。それぞれの領域についての「受験資格保留制」は2年間有効です。

認定証の有効期間は5年間で、この間に50ポイントを獲得した場合は、無試験で医療情報技師の資格が5年間延長されます。

内容は、以下の3領域について知識・技能の到達目標と具体的行動目標が提示されています。

1. 情報処理技術に関すること
 - ・基本的な情報通信技術（IT）を理解し、利用できる
 - ・セキュリティ対策全般を補佐できる
 - ・情報システムの分析・設計・開発を支援できる
 - ・医療機関等においてLANの運用管理が支援できる
 - ・業務用データベースに携わることができる
2. 医学・医療に関すること
 - ・他の医療専門職と円滑な対話ができる患者さんの受け入れから社会復帰のプロセスを理解し説明できる
 - ・地域における保健医療福祉の連携を理解し、説明できる
 - ・個人情報の収集、蓄積、伝達、情報開示について理解し、判断できる
 - ・医療に関する基本的な法制度を知り、医療機関の施設的用件等を説明できる
 - ・医の倫理、患者の人権・尊厳を理解し、説明できる
 - ・医療保険など社会保障制度を理解し、説明できる
3. 医療情報システムに関すること
 - ・患者の個人情報の種類と構造の特性を知り、収集、伝達などを説明できる
 - ・医療情報システムの種類、機能、特性について説明できる
 - ・医療情報システムの利用者に対して操作教育ができる
 - ・診療情報請求情報や医薬材料情報などの特性を知り、説明できる

レベル

認定機関である日本医療情報学会では、初級医療情報技師という位置づけです。本学の「医学・医療」、「医療情報システム」、「情報処理技術」の3年前期までの科目で試験範囲はカバーしています。試験問題は教科書（医療情報 篠原出版新社・全3編）から出題されます。試験問題の内容は基本教科書に沿っており、北海道情報大学医療情報学科の学生が卒業までに最低限持っていないといけない資格といえます。関連する講義に出席してしっかりとした成績を収めていれば合格することができます。

学習の心得

教科書として医療情報第7版「医療情報システム編」、「医学・医療編」、「情報処理技術編」（篠原出版新社2022年）および「医療情報サブノート第4版」（篠原出版新社、2017年改定）があります。また、過去問題集「医療情報技師能力検定試験過去問題・解答集」（南江堂）が毎年出版され、問題の解説も載っています。したがって資格勉強しやすい環境が用意されています。教科書により知識の整理を行い、過去問題で問題の傾向を知ることにより合格の確度を上げることができます。また、対策講座（「医療情報演習応用」の講義で実施）を開催しますので受験者は必ず履修してください。3年生で医療情報技師を取得した場合、「医学・医療」は診療情報管理士試験に発展していきますし、他2科目は診療情報管理士試験の「医療情報学」に繋がっていきます。したがって、医療情報技師を合格する学生は高い確率で診療情報管理士にも合格します。

本学での対応科目・講座

専門科目「医学・医療科目」、「医療情報システム科目」、「情報科目」のほとんどが試験範囲に含まれますが、その中でも特に関連する科目を挙げます。

医学・医療科目：医療制度論、臨床医学、臨床検査概論、医療統計学など

医療情報システム科目：医療情報学概論、病院情報システム概説Ⅰ・Ⅱ、放射線医科学概論など

情報科目：コンピュータシステムⅠ・Ⅱ、システム開発基礎Ⅰ・Ⅱ、ネットワークとセキュリティⅠ・Ⅱなど

対策講義：医療情報演習応用Ⅰ・Ⅱ、医療情報システム演習

全体の合格率・合格者数

開催年	受験者総数	合格者数	合格率
2024年（第22回）	2,974名	1,111名	37.4%
2023年（第21回）	3,170名	1,153名	36.4%
2022年（第20回）	3,400名	1,161名	34.2%
2021年（第19回）	3,489名	1,357名	38.9%
2019年（第17回）	4,210名	1,410名	33.5%

※2020年（第18回）の本試験は中止になりました。

医療系

診療報酬請求事務能力認定試験

主催団体：厚労省認可 公益財団法人 日本医療保険事務協会

試験日 年2回（7月、12月）、日曜日または祝日

申込 公益財団法人 日本医療保険事務協会（本学で団体申込）

受験料 9,000円（税込）

Webサイト <https://www.iryojimu.or.jp>

試験会場 札幌市、仙台市、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟市、金沢市、静岡市、愛知県、大阪府、岡山市、広島市、高松市、福岡県、熊本市、那覇市

内 容

病院経営における主たる収入源である医療制度や診療報酬制度の専門的知識及び実技などの能力が要求される。医療事務資格の最高峰であり、医療事務のスペシャリストを養成するための資格で毎年2回全国一斉統一試験です。

試験科目（医科）は

- 学科試験 医療制度、医学医療関係 20問
- 実技試験 診療報酬請求明細書作成 {入院、外来各1問} 2問

※試験時間は、学科試験・実技試験併せて3時間

レベル 本学の医療関係科目を2年間受講すると、これらの試験範囲が網羅されることとなります。この試験は診療報酬関連試験ではハイレベルの試験となります。しかしながら、過去の問題など出題の傾向を把握し集中して学習すれば合格は可能です。なお、将来の就職先として病院及び医療関連企業を希望するのであればこの資格は有効です。IT化が進んだ医療機関では情報系に強みのある学生で、なおかつこの診療報酬請求事務能力認定試験の有資格者を採用する傾向となっています。

学習の心得 試験には保険制度、医学医療の基礎知識からなる学科と診療報酬請求明細書作成からなる実技があることから、過去の問題に十分取り組んでおかなければ合格はできません。授業は1、2年生で学んだ保険制度、医学医療の基礎知識と診療報酬請求事務業務をさらに高度な視点から追求し、知識を醸成させるために対策講座を実施しています。高度なこの資格取得対策としては、過去問題などを数多く演習することで可能とします。

本学での対応科目・講座

医療情報システム科目

- ① 医療事務総論（１年前期）
- ② 診療報酬請求事務論（１年後期）

全体の合格率・合格者数

令和 6年度 7月（第60回）					
医科受験者総数	1,665名	合格者数	553名	合格率	33.2%
令和 5年度 12月（第59回）					
医科受験者総数	3,659名	合格者数	1,771名	合格率	48.4%
令和 5年度 7月（第58回）					
医科受験者総数	2,446名	合格者数	905名	合格率	37.0%
令和 4年度 12月（第57回）					
医科受験者総数	4,162名	合格者数	1,502名	合格率	36.1%
令和 4年度 7月（第56回）					
医科受験者総数	2,313名	合格者数	655名	合格率	28.3%
令和 3年度 12月（第55回）					
医科受験者総数	4,913名	合格者数	1,934名	合格率	39.4%
令和 3年度 7月（第54回）					
医科受験者総数	3,138名	合格者数	1,177名	合格率	37.5%
令和 2年度 12月（第53回）					
医科受験者総数	5,378名	合格者数	2,304名	合格率	42.8%
令和 元年度 12月（第51回）					
医科受験者総数	5,337名	合格者数	1,469名	合格率	27.5%
令和 元年度 7月（第50回）					
医科受験者総数	3,947名	合格者数	1,374名	合格率	34.8%

※第52回試験は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止。

そ の 他

実践を踏まえて指導するので、資格取得は難関ではありますが、スケジュール管理や勉強方法を確立することで合格への道筋をたてられる指導を行ないます。具体的には過去問のほか、あらゆる出版社から出ている多角的な問題をクリアすることで合格ラインへの到達を目指します。

医療系

健康食品管理士認定試験

主催団体：一般社団法人 日本食品安全協会

試験日 毎年5月、11月（年2回）
2025年度は、
① 5/18（日）
② 11/ 9（日）を予定

申込 5月：3月～4月の2ヶ月間
11月：7月～9月の2ヶ月間

受験料 10,000円、認定登録料10,000円（合格後）
※既卒者は受験料15,000円、認定登録料20,000円

Webサイト <http://www.ffci.jp/index.html>（日本食品安全協会ホームページ）

試験会場 認定校在学学生：認定校
上記以外：別途通知
※北海道情報大学は認定校として登録されています。

内 容

健康食品管理士とは、一般社団法人日本食品安全協会が健康食品等の安全性、効果、医薬品との相互作用、及びその取り扱いに関する知識を有し、健康食品等を摂取する消費者の健康状態の判断等に一定レベルの能力があると認めた者で、消費者に対し健康食品等を適正に利用することとその被害から守ることに指導的役割を担える人材です。

健康食品管理士が資する能力として平成14年に厚生労働省から発出した通知「保健機能食品に係るアドバイザースタッフの養成に関する基本的考え方について」の考えが重視されています。そのため、健康食品管理士は、健康食品と健康との係わりを物質代謝レベルで理解が可能であり、かつ疫学や生活習慣病等の検査結果に関する知識を有し、『食品、健康食品に関して安心・安全』を担保可能な人材とこの分野における研究開発、販売等でのトラブルを未然に防ぐことのできる人材になります。

具体的には次のような能力が挙げられます。

1. 健康食品などの分類ができ、適正摂取に関して安全性も含めて有用性を判断できる。
2. 健康食品の過剰摂取が引き起こす障害など問題点の認識ができる。
3. 医薬品と健康食品の相違について認識ができる。
4. 医薬品による治療に対して健康食品の使用のあり方を判断できる。
5. 健康食品など生体に何らかの作用のある食品と医薬品との相互作用の判断ができる。
6. 食品及び食品添加物の安全性に関する認識ができる。
7. 健康状態の情報としての臨床検査に関する知識を有しその利用ができる。
8. 健康状態に応じた食品及び健康食品などの適切な利用法が判断できる。
9. 薬機法、健康増進法、食品衛生法、JAS法等関係法規の理解ができる。
10. 消費者保護の観点で健康食品に関する相談に応ずることができる。

試験科目と出題数（全100問）

	科 目 名	出 題 数
(1)	健康食品総論（保健機能食品総論）	33
(2)	健康食品各論（保健機能食品各論）	
(3)	食品と栄養	15
(4)	食品表示・食品の安全性	10
(5)	疾患と栄養(病態解析と栄養管理)	10
(6)	医薬品と食品の相互作用	10
(7)	関係法規	7
(8)	疾患と病態解析(病態解析と栄養管理)	15

試験は択一式試験です。

レ ベ ル

本学での試験対策科目の履修により、認定試験の受験資格を得ることができます。医療および保健に関する基礎知識に加え、食品学、栄養学、薬学およびそれらに関する法規などの知識が必要となります。また食のアドバイザースタッフとしてのコミュニケーション能力も必要です。

学習の心得

- ・食品の栄養および機能性について理解し、それらを健康づくりおよび疾病予防に生かす
- ・食品の知識はもちろんその摂取方法など具体的な提案ができる 人材を目指す
- ・保健機能食品学（食の機能と健康の科学）および問題解説集を用いてしっかりと学習することは必須です

本学での対応科目・講座

- ・「基礎科目」：生化学、生理学、解剖学、医学総論、臨床医学ⅠおよびⅡ
- ・「専門科目」：食品保健科学、分子栄養学、食品関係法規、薬学基礎演習、薬理学、公衆衛生学、バイオテクノロジー実習

医療系

第1種・第2種ME技術実力検定

主催団体：公益社団法人 日本生体医工学会

試験日	第1種：年1回（6月） 第2種：年1回（9月）
申込	第1種：4月 第2種：5月～6月
受験料	第1種：22,000円（初回） 13,000円（再受験） 第2種：15,000円

Webサイト 第1種：https://megijutu.jp/cebe1/cebe1_guidline.html
第2種：<https://megijutu.jp/cebe2/index.html>

試験会場 第1種：eラーニング（オンデマンド配信）
第2種：札幌市

内 容

1種

第1種ME技術実力検定試験は、「ME機器・システム（以下、ME機器という）および関連設備の保守・安全管理を中心に総合的な専門知識・技術を有し、かつ他の医療従事者に対し、ME機器および関連設備に関する教育・指導ができる資質を検定する」ことを趣旨としています。試験に合格し、かつ実務経験を認められた者は日本生体医工学会より合格認定証が交付され、「第1種ME技術者」の呼称が使用できます。

なお、本学会が実施している第2種ME技術実力検定試験は、「ME機器の安全管理を中心とする医用生体工学に関する知識をもち、適切な指導者のもとでそれを実際に医療で応用しうる資質を検定する」ことを目的としており、第1種ME技術実力検定試験に合格する能力を有する者は、ここでいう「適切な指導者」に相当します。

出題範囲

①ME安全管理分野

ME機器・病院設備に関する規格（JIS等）の意味や根拠、信頼性・安全性工学の医療現場への応用、機器・設備の品質管理マネジメント、安全研修指導、機器・設備のライフサイクル管理、医療材料の安全性、など。

心電計・血圧計・オキシメータ・画像診断機器等の生体計測機器の原理・構成の理解、医用センサの原理と誤差要因、保守点検の方法とその原理・必要性、トラブルの分析と対策、使用方法や管理方法の指導、など。

③臨床治療機器分野

除細動器・電気メス・体外循環装置・血液浄化装置・人工呼吸装置等の臨床治療機器の原理・構成の理解、保守点検の方法とその原理・必要性、トラブルの分析と対策、使用方法や管理方法の指導、など。

②生体計測機器分野

心電計・血圧計・オキシメータ・画像診断機器等の生体計測機器の原理・構成の理解、医用センサの原理と誤差要因、保守点検の方法とその原理・必要性、トラブルの分析と対策、使用方法や管理方法の指導、など。

③臨床治療機器分野

除細動器・電気メス・体外循環装置・血液浄化装置・人工呼吸装置等の臨床治療機器の原理・構成の理解、保守点検の方法とその原理・必要性、トラブルの分析と対策、使用方法や管理方法の指導、など。

2種

この試験は「ME機器・システムの安全管理を中心とした医用生体工学に関する知識をもち、適切な指導者のもとでそれを実際に医療に応用しうる資質」を検定するものです。合格者は、日本生体医工学会より合格証明証が交付され、「第2種ME技術者」の呼称が使用できます。また、第1種ME技術実力検定試験の受験資格が得られます。

出題範囲

Ⅰ．基礎的知識

1) MEの基礎となる医学的知識：

循環、呼吸、代謝、脳神経、運動、感覚、内分泌など、解剖や生理機能に関する基礎的知識、医療制度や公衆衛生に関する基礎的知識

2) MEの基礎となる理工学的知識：

直流・交流回路、増幅器、フィルタ回路などの電気・電子回路、コンピュータ、物理学、流体力学、熱力学、化学などに関する基礎的知識

3) MEの基礎的知識：

生体の物理的特性（電気、力、流体、温熱、音響、光、放射線など）および化学的特性、生体計測法・治療法・滅菌法の原理、単位や定数、センサなどに関する基礎的知識

Ⅱ．実際の知識

医療の現場で使用される機器・システムについて、下記のような知識（JISを含む）が問われます。

機器・システムには心電計、脳波計、筋電計、生体情報モニタ、テレメータ、血圧計、血流計、呼吸計測装置、各種血液ガス分析装置、医療画像診断装置（内視鏡、超音波診断装置、X線CT、PET、MRIなど）、麻酔器、電気メス、レーザメス、除細動器、人工呼吸器、血液浄化装置、体外循環装置、ペースメーカなどが含まれます。

1) 原理、構造に関する知識：機器・システムの原理、構造、性能など

2) 操作、運用に関する知識：用途、操作法、校正法、保管手段、日常点検、トラブル対策など

3) 保守、点検に関する知識：

漏れ電流、接地抵抗、絶縁抵抗などの定期点検および各種医療機器の機能点検、主要な故障診断法とそれとともなう測定器の使用法など

4) 安全性、信頼性に関する知識：

電氣的安全性（マイクロショック、マクロショックなど）、物理化学的安全性（爆発・火災・熱傷・機械的破損など）に関する事項、EMC、故障率、信頼度など

5) 病院設備等に関する知識：

電気設備（接地、非常電源、非接地配線）、医療ガス設備、電磁環境など

レベル

第2種は、本学臨床工学専攻のカリキュラムでは3年生の9月までには合格に必要な知識を得ることができますが、努力次第では2年生での合格も可能です。合格率は30%～40%で推移しています。2種を合格すると1種の受験が可能となります。

学習の心得

資格取得のためには日々の講義に出席し、内容をしっかりと理解することが重要です。さらに過去問題を繰り返し解いて理解する必要があります。

本学での対応科目・講座

臨床工学専攻科目の専門科目全般および試験対策補講が行われます。

全体の合格率、合格者

第1種：令和6年度第29回試験 合格率53.8%

第2種：令和6年度第45回試験 合格率35.0%

医療系

登録販売者試験

主催団体：各都道府県

(北海道：北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課)

試験日 北海道：例年は8月末に実施
※各都道府県でばらつきがあります。

申込 次の書類を各1部提出する。
(1) 登録販売者試験受験願書 (2) 写真 (3) 入力通知書
※北海道で受験する場合は受付期間、提出先については北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課のホームページを確認してください。受験者案内として発行される「登録販売者試験を受験される方へ」、及び、受験願書、入力通知書については同ホームページよりダウンロードできます。

受験料 18,200円(令和6年度 北海道)

Webサイト <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/iyk/index.html>
(北海道保健福祉部地域医療推進局医務薬務課ホームページ)

試験会場 北海道(札幌市、旭川市、函館市、釧路市)、他各都道府県
個別の受験会場については受験票で確認してください。

内 容

登録販売者は2009年の薬事法の改正によって新設された国家資格です。かぜ薬や鎮痛剤などの一般用医薬品の販売に携わる資格で、薬剤師とは①処方箋に基づく薬の調剤ができるかできないか、②要指導医薬品及び第一類医薬品が販売できるかできないかの2つの点で異なります。登録販売者資格の取得後は、一般用医薬品の9割以上を占める第二類・第三類医薬品の販売が可能になります。現在、日本では医療費抑制に向けた施策として「セルフメディケーション」が推進されていますが、登録販売者は地域医療のサポート役としてもニーズが拡大しています。2015年4月1日以降の試験より学歴・年齢・実務経験が不問になり受験資格が緩和されました。試験項目は表のとおりです。

試験項目	出題数	試験時間
① 医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問	40分
② 人体の働きと医薬品	20問	40分
③ 主な医薬品とその作用	40問	80分
④ 薬事に関する法規と制度	20問	40分
⑤ 医薬品の適正使用と安全対策	20問	40分
合計	120問	240分

試験方法：試験は、筆記(マークシート)の方法により実施

合格基準：原則として、総合得点の7割以上、かつ、各項目の得点が4割以上(北海道)

レベル

登録販売者試験は厚生労働省が作成している「試験問題の作成に関する手引き」（以下、手引き）の内容、及び「例題」の形式に準拠して出題されますが、本学医療情報学部の「医学・医療科目」をしっかりと理解できれば十分に合格できます。

学習の心得

受験に際しては「手引き」の内容を正しく覚え理解することが重要です。総得点の7割以上が合格の目安ですが、1項目でも都道府県が定める基準（北海道は4割）を下回ると不合格になりますので苦手項目をつくらないことも大切です。また、過去問を多く解き、出題形式にも慣れておくようにしましょう。

本学での対応科目・講座

医療情報学部の「医学・医療科目」全般（特に、医学概論、解剖学、生理学、病理学、薬理学、生化学、分子栄養学など）。Jゼミ等で対策講座を行います。

全体の合格率・合格者数

登録販売者試験データ（全国合計値）

開催年	受験者総数	合格者数	合格率
2023年	52,214 (1,595)	22,814 (817)	43.7% (51.2%)
2022年	55,606 (2,005)	24,707 (1,043)	44.4% (52.0%)
2021年	61,070 (2,236)	30,082 (948)	49.3% (42.4%)
2020年	52,959 (2,085)	21,953 (861)	41.5% (47.4%)
2019年	65,228 (2,085)	28,328 (1,340)	43.4% (64.3%)
2018年	65,500 (1,937)	27,022 (1,136)	41.3% (58.6%)
2017年	61,126 (2,032)	26,606 (1,286)	43.5% (62.4%)

※（ ）内は北海道の数値

医療系

MDIC認定試験

主催団体：一般社団法人 日本医療機器学会

試験日 年1回（1月上旬の日曜日）

受験料 WEB 13,000円 会場 11,000円

認定セミナー
受講料 24,000円（4科目のテキスト代およびスライドレジメ集を含みます）Webサイト <https://www.jsmi.gr.jp/license/mdic/>

内 容

この試験は、医療機器の品質向上、安全性の確保並びに適正使用の普及を目指し、ヒヤリ・ハット情報や不具合情報等を含む情報の収集・提供や医療機器全般の適正な使用および保守管理に必要な知識・技術などの情報を医療安全管理者・医療機器安全管理責任者や医療機器の利用者（医師・看護師・臨床工学技士ほか）等と製造・販売・賃貸業者、修理業者を含む医療機器の製造販売業者等との間で共有し、患者の安全と医療の質向上に貢献できる担当者となる医療機器情報コミュニケーションMDIC（エム・ディー・アイ・シー）を学会で認定するもので、MDIC認定セミナーを受講後、検定試験の合格者には日本医療機器学会より合格証明証が交付され「医療機器情報コミュニケーションMDIC」の呼称が使用できます。

また、臨床工学技士を目指す学生にとっては国家試験に向けての実力確認ともいえる試験内容です。さらに本試験の合格者は、就職活動を行う場合、PRポイントとなり就職活動を円滑に行うことができます。

試験内容は、医療概論、臨床医学、臨床工学、医療情報の4科目からなり医療機器の基本的な適正使用および関連する技術情報に必要な知識並びにコミュニケーション力、ヒヤリ・ハット、不具合情報等の医療機器に関する安全性情報の収集、あるいは提供に必要な基礎的事項について出題されます。

- I. 医療概論
 - 1) 医学・医療とその社会における役割
 - 2) 医療の現状と課題
 - 3) 医療機器と医薬品
 - 4) 社会保障制度と医療
 - 5) 医療資源の現状と課題
 - 6) 我が国の医療のしくみ
 - 7) 医療安全管理
 - 8) 医療保険制度と介護保険制度
 - 9) 関連法規
- II. 臨床医学
 - 1) 人体の基本構造
 - 2) 疾患概論
 - 3) 診断学
 - 4) 医療機器と感染管理・安全管理
 - 5) 臓器と疾患

Ⅲ臨床工学

- 1) 医療機器の安全基準
- 2) 医療機器の保守点検
- 3) 生体計測機器の原理・取り扱い上の注意と保守点検
- 4) 治療機器の原理・取り扱い上の注意と保守管理

Ⅳ医療情報

- 1) コンピュータの基礎
- 2) 情報セキュリティの基礎
- 3) 医療情報の特殊性と医療情報システム
- 4) 診療録とその他の諸記録
- 5) 病院情報システム
- 6) 医療情報の標準化

試験方法は医学概論、臨床医学、臨床工学、医療情報それぞれに分かれ各科目40問（合計120問）出題されます。各問は五者択一です。
合格ラインは4科目すべてが60%以上とされています。

レベル

本学臨床工学専攻のカリキュラムには3年次前期までには合格に必要な知識を得ることが出来ます。2年生での受験で合格することも可能です。公表はされていませんが、難易度としては全体で毎年50～60%程度の合格率とされています。

学習の心得

この資格取得のためには日々の講義内容をしっかり理解することが重要です。

本学での対応科目・講座

臨床工学専攻カリキュラムにおいての専門科目すべておよび情報系基礎科目

教養系

実用英語技能検定

(英検：1級・準1級・2級・準2級)

主催団体：財団法人 日本英語検定協会

試験実施期間

第1回：一次 6月 1日(日) 二次A日程 7月 6日(日) B日程 7月13日(日)
 第2回：一次 10月 5日(日) 二次A日程 11月 9日(日) B日程 11月16日(日)
 第3回：一次 1月25日(日) 二次A日程 3月 1日(日) B日程 3月 8日(日)

申込

第1回： 3月24日～ 5月 7日 第2回：7月1日～9月8日
 第3回：10月31日～12月15日

受験料

1級 12,500円 準1級 10,500円 2級 9,100円
 準2級プラス 8,700円 準2級 8,500円 (3級 6,900円 支援対象外)

Webサイト <https://www.eiken.or.jp>

試験会場 全国各地 札幌近郊でも複数箇所を実施

内容

語学試験の中で最も有名な検定試験。年間受験者数は450万人。近年は試験内容も、よりコミュニケーション的な内容となり、進学や就職の選考資料として活用され、信頼度は非常に高い。アメリカ、オーストラリアなどへの海外留学時の語学力証明としても認められている。上位級取得者が就職活動で有利というのは、学生の間では常識である。本学の学生も、中学や高校等ですでに受験している者も多いことだろう。したがって形式にはなじみがあると思う。一次試験では「正確な知識と運用力」、二次試験では「コミュニケーション能力」に重点が置かれている。

レベル

本学学生に関して言えば、上位者は2級や準1級、中位者は準2級、下位者は3級を目指してもらいたい。卒業までに準2級レベルの英語力は欲しい。できれば2級レベルが望ましい。

学習の心得

過去の傾向や対策がわかるので専用テキストの使用が必要である。英語検定のテキストは本学図書館にもあるが、主に2級のものである。それ以外の級については、書店で買い求めること。不明な点や助言が必要であれば、309研究室(竹内)まで問い合わせること。

本学での対応科目・講座

リーディングⅠ・Ⅱ、ライティングⅠ・Ⅱ、コミュニケーションⅠ・Ⅱ、スピーキングⅠ・Ⅱ、職業英語A・B

全体の合格率・合格者数

2015年度は、1級(12.0%)、準1級(16.0%)、2級(26.4%)、準2級(36.7%)、3級(52.9%)。

本学学生の合格者は準1級や2級が数名。準2級、3級は多数。2016年度以降は非公開。

MEMO

教養系

TOEIC® L & R (スコア500点以上)

主催団体：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会

試験実施期間 試験：1月、2月、3月、4月、5月、6月、7月、8月、9月、10月、11月、12月（受験月によって受験地は異なる）

申込 試験日約2ヵ月前から1ヵ月間程度（インターネット申込の場合）

受験料 7,810円（公開テストに申し込みをすると次の試験からリピート受験割引の対象になる）

Webサイト <https://www.iibc-global.org/toEIC/test/lr/>

試験会場 全国主要都市約200ヵ所以上
回によって実施されない受験地もあるので事前に確認のこと

内 容

世界共通の基準で自分の実力を知ろう！ 世界約150ヵ国で実施されている大規模なテストで、日本だけでも年間192万人（2023年度）が受験している。英語によるコミュニケーション能力を評価するのだが、その評価は世界的に共通の基準として認められており、スコアの信頼性も高い。そのため多くの企業で社員の英語能力を測る基準として活用されている。ビジネスの舞台を海外に求める人は、Bレベル以上を目指したい。

（Aレベル：860～990点、Bレベル：730～855点、Cレベル：470～725点、
Dレベル：220～465点、Eレベル：10～215点）

なおTOEICブリッジは基礎レベルの試験であり、180点満点である。ブリッジの150点がTOEICの約470点に相当する。

レベル 本学学生に関して言えば、上位者はB～Cレベル、中位者はC～Dの上レベル、下位者はDの中～上レベルを目指してもらいたい。

学習の心得 書店には非常に多くのTOEICの参考書があふれている。傾向や対策がわかるので専用テキストの使用が必要である。不明な点や助言が必要であれば、309研究室（竹内）まで問い合わせること。また職業英語や自主ゼミでも講座を開いているので積極的な受講を薦める。

本学での対応科目・講座

職業英語AB

全体の合格率・合格者数

TOEICは合格、不合格のテストではなく点数で評価される。英語を専門としない者でBレベルに達するなら、それは優秀な人材であり、企業から引く手あまたであろう。本学でもAレベルの点数を取った者がいる。Cレベルも少数いる。情報大学からBレベル以上をとる者が多数出てきて欲しい。

教養系

TOEFL® (スコア60以上)

主催団体：ETS (Educational Testing Service)

試験実施期間 基本的に土日に実施される。北海道でも1ヵ月に複数回実施されている。不定期なので随時調べることに。

申込 オンラインまたは電話にて。定員になり次第締め切り。北海道の会場は数日で埋まってしまうこともあるので要注意。

受験料 受験日の7日前まで：245米ドル 受験日の2日前まで：285米ドル

Webサイト <https://www.toefl-ibt.jp>

試験会場 全国の主要教育施設約70か所
北海道では北海道大学、イーエデュケーションズ札幌テストセンター

内 容

英語を母国語としない人が、英語圏の大学や大学院等への留学を希望したり、国際政府機関等で働くとする際に、それに足りる英語力があるかどうかを評価する試験。合否の判定はなく、得点で英語力レベルを把握するのが目的である。以前はペーパー(PBT)であったり、コンピューター(CBT)を利用したりしていたが、現在はインターネット版(iBT)に切り替わっていて、オンラインで解答する形式である。

レベル 留学を志す者であれば、学部レベルなら75点、大学院レベルなら80点は欲しいところである。ただし相当難しい。60点(PBTの500点)なら、本学学生では上位の英語力である。受験料は245米ドルとたいへん高い。

学習の心得 書店には数種類のTOEFLの参考書がある。傾向や対策がわかるので専用のテキストを使用する方がいい。不明な点や助言が必要であれば、309研究室(竹内)まで問い合わせること。受験料は高いが、何回か受けると問題に慣れてくる。

本学での対応科目・講座

特になし

全体の合格率・合格者数

TOEFLもTOEIC同様合格、不合格のテストではなく点数で評価される。本学でも長期留学を志す者が年に1~2人受けるが、高得点をとれないでいる。留学先の大学で単位をとるためには70~80点は必要である。今後はTOEFLで高得点を取り留学先で単位をとる学生が現れることを期待している。

教養系

ドイツ語技能検定試験(2級・3級・4級)

主催団体：財団法人 ドイツ語学文学振興会

試験実施期間 2025年夏(6月22日)と冬(12月7日)

申込 2025年4月1日～ 5月15日(ネット申込)、16日(郵便申込)
 2025年9月1日～10月16日(ネット申込)、17日(郵便申込)
 (2つの級を同一日に受験することも可能)

受験料 2級 9,500円 3級 7,500円 4級 5,500円
 (5級4,500円：支援対象外)
 ※併願：
 2級+3級 16,000円
 3級+4級 12,000円(両方合格：3級分のみ支援、
 4級のみ合格：4級分のみ支援)
 4級+5級 9,000円(合格の場合：4級分のみ支援)

Webサイト <http://www.dokken.or.jp>

試験会場 冬のみ北海道会場あり。詳細はWebサイトで確認してください。

内容 発音問題、文法問題、聞き取り問題、読解問題など。

レベル ドイツ語ⅠABで学ぶ基本的文法事項をマスターし、語彙力をつければ5級は楽に受かると思われる。ドイツ語ⅡABまで学べば4級以上を目指せるであろう。

学習の心得 基本的文法事項を反復練習し、音読練習、聞き取り練習を繰り返すことが大事である。「習うより慣れよ」を实践すること。

本学での対応科目・講座

ドイツ語ⅠAB、ドイツ語ⅡAB

全体の合格率・合格者数

5級は2008年度秋季から新設され、合格率は、第1回が87%、第2回が94%だった。4級の場合、春・秋ともに合格率は70%前後で推移している。本学では過去において3級合格者が3名、4級合格者も5名ほど出ている。ドイツ語ⅡABで優を取った学生が全員受験するなら、4級～5級合格者は毎年5名は下らないと思われる。

MEMO

教養系

中国語検定試験（４級）

主催団体：一般社団法人 日本中国語検定協会

試験実施期間 2025年3月23日（第4日曜日）、6月22日（第4日曜日）、
11月23日（第4日曜日）

申 込 各試験日の2か月前の15日から翌月25日までインターネット申込の締め切り日についてはWebサイトにて、ご確認ください。

受 験 料 郵送による申込もインターネットによる申込も受験料は同じです。
4級：4,800円（3月）、5,800円（6月、11月）
準4級：3,500円（3月）、3,800円（6月、11月）※準4級は支援対象外

Webサイト <http://www.chuken.gr.jp>

試験会場 北海道から沖縄までの国内主要都市と北京、上海など海外での受験も可能

内 容

リスニング試験と筆記試験

4級 単語の意味、漢字のピンインへの表記がえ、ピンインの漢字への表記がえ、常用語500～1000による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳。

準4級

- ① 基礎単語約500語（簡体字を正しく書けること）
- ② ピンイン（発音ローマ字）の読み方と綴り方
- ③ 単文の基本文型
- ④ 簡単な日常挨拶語約50～80

級	試験時間	配 点	合格基準点
4級	90分	200点（リスニング100点、筆記100点）	各60点
準4級	50分	100点（リスニング50点、筆記50点） ※準4級はリスニングを受験しない場合、不合格	60点

レ ベ ル

4級

中国語の基礎をマスター。平易な中国語を聞き、話すことができること。
（学習時間120～200時間、大学の中国語ⅠAB及び中国語ⅡABの2年間8単位修得レベル）

準4級

中国語学習の準備完了。中国語の学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること。
（学習時間60～120時間、大学の中国語ⅠABの1年間4単位修得レベル）

学習の心得

中国語検定試験の問題には、いささか独特の傾向があります。受験前には、過去の問題内容や傾向を事前に確認しておき、模擬試験問題集などを何回かやっておく必要があります。そうすれば、本学の中国語の授業にまじめに取り組んでいる学生の合格率は、必ず高くなるはずです。合格への対策としては、特に中国語の基本単語のピンインと声調は、確実に覚えておきたい。リスニングの試験もあるので、普段から中国語

本学での対応科目・講座

中国語 I AB (一年次通年)、中国語 II AB (二年次通年)

全体の合格率・合格者数

過去の本学学生の合格者数については、正確には調査されていませんが、準4級と4級の合格者は、それぞれ毎年2～3名出ています。過去の本学学生の合格者数については、正確には調査されていませんが、準4級と4級の合格者は、それぞれ毎年2～3名出ています。

教養系

実用数学技能検定 (1級・準1級・2級)

主催団体：日本数学検定協会

検 定 日 (個人受験A日程)

実施回	検定日	試験開始時刻
第440回	2025年 4月13日(日)	午後1時～2時 (受験票に記載)
第444回	2025年 7月27日(日)	
第448回	2025年10月26日(日)	

申 込

個人受験A日程、個人受験B日程、団体受験の3つの受験方法があります。受験方法によって、検定目や検定料、申し込み方法などが異なります。

個人受験A日程は年3回(検定日は上記参照)

第440回：受付開始2月10日(月) 申込締切3月 4日(火)

第444回：受付開始5月26日(月) 申込締切6月17日(火)

第448回：受付開始8月25日(月) 申込締切9月17日(水)

※個人受験B日程と団体受験に関しては、ネットで確認してください。

申 込 方 法：個人受験の申し込み方法は、次の4通りがあります。

- ① インターネットで申し込む ② LINEで申し込む ③ 郵送で申し込む
④ コンビニに設置の端末から申し込む

受 験 料

1級8,500円 準1級7,300円 2級6,500円
(準2級 5,600円：支援対象外)

Webサイト

<https://www.su-gaku.net/suken/>

試 験 会 場

個人受験A日程の会場(一般会場)は全国各地にあり、受験地によって決められています。詳しくはWebサイトで確認してください。

内 容

- ① 1次検定(計算技能検定)と2次検定(数理技能検定)があります。
- ② 1次、2次を同日に行います。初めて受験するときは、1次・2次両方を受験します。
- ③ 1次検定のみに合格すると計算技能検定合格証、2次検定のみに合格すると数理技能検定合格証、1次2次ともに合格すると実用数学技能検定合格証が発行されます。
1次2次とも不合格の場合は、級に応じて未来期待証が発行されます。
- ④ 各検定日の約3週間後に、インターネットを利用して検定の可否のみ確認することができます。

レ ベ ル

1級

大学程度
合格率は8.5%

準1級

高校3年生(数Ⅲまで)程度
合格率は20.9%

2級

高校2年生(数Ⅱ・Bまで)程度
合格率は32.3%

準2級

高校1年生(数Ⅰ・Aまで)程度
合格率は41.8%

※合格率は2023年度の実績

出題内容

- 1 級：検定時間は1次60分、2次120分、主に下のAの範囲から出題される。
- 準1級：検定時間は1次60分、2次120分、主に下のB、Cの範囲から出題される。
- 2 級：検定時間は1次60分、2次90分、主に下のC、Dの範囲から出題される。
- 準2級：検定時間は1次60分、2次90分、主に下のD、Eの範囲から出題される。

■ A 大学

解 析：微分法、積分法、基本的な微分方程式、多変数関数（偏微分・重積分）、基本的な複素解析

線形代数：線形方程式、行列、行列式、線形変換、線形空間、計量線形空間、曲線と曲面、線形計画法、二次形式、固有値、多項式、代数方程式、初等整数論

確率統計：確率、確率分布、回帰分析、相関係数

コンピュータ：数値分析、アルゴリズムの基礎

その他：自然科学への数字の応用 など

■ B 高校3年：数学Ⅲ程度

数列と極限、関数と極限、いろいろな関数（分数関数・無理関数）、合成関数、逆関数、微分法・積分法、行列の演算と1次変換、いろいろな曲線、複素数平面、基礎的統計処理、コンピュータ（数式処理）など

■ C 高校2年：数学Ⅱ・数学B程度

式と証明、分数式、高次方程式、いろいろな関数（指数関数・対数関数・三角関数・高次関数）、点と直線、円の方程式、軌跡と領域、微分係数と導関数、不定積分と定積分、ベクトル、複素数、方程式の解、確率分布と統計的な推測、コンピュータ（数値計算）など

■ D 高校1年生：数学Ⅰ・数学A程度

数と集合、数と式、2次関数・グラフ、2次不等式、三角比、データ分析、場合の数、確率、整数の性質、 n 進法、図形の性質、等差数列、等比数列、コンピュータ（流れ図・近似値）、統計処理の基礎、離散グラフ、数字の歴史的観点 など

■ E 中学3年程度

平方根、式の展開と因数分解、素因数分解、二次方程式、三平方の定理、円の性質、相似比、面積比、体積比、簡単な二次関数、簡単な統計 など

学習の心得

対策用の参考書や問題集が多く出版されていますので、検定前にはそれらを一通り解いておくことも必要です。ただ、基本からきちんと学習したい場合には、高校時代の教科書で復習することが一番よいでしょう。

本学での対応科目・講座

本学で開講される数学系の科目が対応科目です。学部・学科によって開講科目が異なりますので、詳細は講義概要等で確認してください。

教養系

実用フランス語技能検定試験(4級以上)

主催団体：公益財団法人 フランス語教育新興協会

試 験 日	春	1次試験(1・2・準2・3・4・5級)	2025年 6月15日(日)
		2次試験(1・2・準2級の1次合格者対象)	2025年 7月20日(日)
	秋	1次試験(準1・2・準2・3・4・5級)	2025年11月16日(日)
		2次試験(準1・2・準2級の1次合格者対象)	2026年 1月25日(日)

申 込	※Webサイトでご確認ください。		
	【昨年度参考】		
春	願書郵送によるお申し込み：		
	2024年4月1日(月)～5月15日(水) 消印有効		
	インターネットでのお申し込み：		
	2024年4月1日(月)～5月22日(水) 23：59まで		
秋	願書郵送によるお申し込み：2024年9月1日(日)～10月16日(水)		
	消印有効		
	インターネットでのお申し込み：2024年9月1日(日)～10月23日(水)		
	23：59まで		

受 験 料	1級	14,500円	準1級	12,500円	2級	10,000円
	準2級	9,000円	3級	7,000円	4級	6,000円
	(5級)	5,000円	： 支援対象外)			

Webサイト <http://apefdapf.org/>

試 験 会 場 札幌

内 容

4級

読む：基礎的な単文の構成と文意の理解。基礎的な対話の理解。
 聞く：基礎的な文の聞き分け、日常使われる基礎的応答表現の理解、数の聞き取り。
 文法知識：基礎的な日常表現の単文を構成するのに必要な文法的知識。
 語彙：920語 標準学習時間：100時間以上

3級

読む：日常的に使われる表現を理解し、簡単な文による長文の内容を理解できる。
 書く：日常生活で使われる簡単な表現や、基本的語句を正しく書くことができる。
 聞く：簡単な会話を聞いて内容を理解できる。
 文法知識：基礎的文法知識全般。動詞については、直接法、命令法、定型的な条件法
 現在と接続法現在の範囲内。
 語彙：1,670語 標準学習時間：200時間以上

他の級の内容については、Webサイトを参照してください。

レベル

4級

基礎的な日常的フランス語を理解し、読み、聞き、書くことができる。

3級

フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、簡単な日常表現を理解し、読み、聞き、話し、書くことができる。

他の級のレベルについては、Webサイトを参照してください。

学習の心得

受験用の参考書・問題集が多数出版されています。初めてフランス語を学習する場合は、まず単語を覚えましょう。そして、基本的な文法事項を学習したら、文法事項ごとに例文を音読し、さらに書き取りしましょう。単語を覚えるときも同様に、音読、書き取りが大切です。声を出して読み、何度でも書くことでフランス語の基礎力が身につきます。ある程度基本的な単語と文法事項を覚えたら、問題集で繰り返し練習問題を解答してください。検定に必要なフランス語力がついてきます。

本学での対応科目・講座

なし

全体の合格率・合格者数

合格基準点 3級、4級、5級は100点満点中60点

合格率(2023年度)					
3級		4級		5級	
春	秋	春	秋	春	秋
66.2%	60.3%	78.8%	79.0%	86.2%	76.9%

教養系

韓国語能力検定【TOPIK】（2級以上）

主催団体：大韓民国教育省・国立国際教育院（NIIED）

試験実施期間 1回目：2025年 4月13日（日）
2回目：2025年 7月13日（日）
3回目：2025年10月19日（日）
4回目：2025年11月16日（日）
年4回実施

申込 1回目：1月10日（金）～1月24日（金）15時
2回目：4月25日（金）～5月 9日（金）15時
3回目：7月14日（月）～7月28日（月）15時
4回目：8月18日（月）～9月 1日（月）15時

受験料 TOPIK I（1級、2級）：5,000円
TOPIK II（3級～6級）：7,000円

Webサイト <https://www.kref.or.jp/examination>（日本）
<https://www.topik.go.kr/usr/cmm/index.do>（韓国）

試験会場 札幌会場あり

内 容

韓国語能力検定は、大韓民国政府（教育省）が認定・実施する唯一の韓国語（ハングル）試験です。

	TOPIK I（初級）[1級・2級]	TOPIK II（中級）[3級～6級]
評価領域	聞き取り：30問 読 解：40問	聞き取り：50問 読 解：50問 筆 記：4問 (作文含む)
試験時間	10:00～11:40（100分） ※休憩なし	一時間目： 13:00～14:50（110分） 二時間目： 15:20～16:30（70分）

レ ベ ル 試験は初級であるTOPIK I（1・2級）と、中・上級であるTOPIK II（3～6級）の2種類があり、得点によって合格級または不合格の判定がされる。

2級

- ・電話や頼み事など、日常生活に必要な会話や、郵便局、銀行などの公共施設における会話ができる。
- ・約1,500～2,000語程度の語彙を用いた文章を理解し、使用することができる。

1級

- ・日常生活を問題なく過ごすことができ、さまざまな公共施設の利用や社会的な関係を維持するための表現を理解し、使用することができる。
- ・書きことばと話ことばの基本的な特性を区分して理解し、使用することができる。

※ 他の級のレベルについては、Webサイトを参照してください。

学習の心得

TOPIKのホームページ（韓国）にて過去問題と解答が入手できますので、そちらを利用することをおすすめします。とにかく続けることが大事です。

本学での対応科目・講座

自主ゼミ（Jゼミ）の「韓国語レッスン」

教養系

日本語検定（準2級以上）

主催団体：特定非営利法人 日本語検定委員会（後援一文部科学省）

試験日 毎年夏（6月）と秋（11月）**申込** 6月受験は3月～試験の一月前、11月受験は8月～試験の一月前。
インターネット、書店の店頭、郵送などで申込み。**受験料** 1級 6,800円 2級 5,800円**Webサイト** <https://www.nihongokentei.jp/>**試験会場** 札幌市内を含め、各都道府県の大きな都市で実施。
受験料を払って申込みの後、受験票の郵送の際に受験会場が通知される。**内容**

日本語の知識と総合的な運用能力を検定。敬語、文法、語彙、言葉の意味、表記、漢字の六つの領域が対象。受験時間は60分です。主な受験対象は、日本語を母国語とする日本人。受験者数は年間およそ10万人。

レベル 1級～7級に分かれるが、北海道情報大学の学習支援センターで資格取得の対象とするのは、2級（社会人・大学生レベル）、1級（社会人レベル）です。**学習の心得** 東京書籍から、1・2級受験用に、日本語検定の公式テキスト「日本語」上級が発売されています。また同様に「日本語検定公式練習問題集1級」と「同2級」が発売されています。これらを使って勉強するのが良いでしょう。**本学での対応科目・講座**

本学での科目としては、「日本語表現Ⅰ」が対応しています。受験のためには、検定委員会が監修した公式テキスト等を用いた勉強が効果的です。

全体の合格率・合格者数

1・2級とも80%以上の得点率で合格。得点率が70～80%の場合は準認定となる（準1級、準2級）。

最近1年間の1・2級の受験者数と合格率は以下の通りです。

試験	受験者総数		合格率			
	2級	1級	準2級	2級	準1級	1級
令和6年度（第1回）	1,771名	523名	25.7%	19.9%	26.6%	6.6%
令和6年度（第2回）	2,099名	540名	25.7%	22.1%	26.0%	15.4%

MEMO

日本語検定

VR技術者認定試験

主催団体：日本バーチャルリアリティ学会

試験実施期間

年2回（6月～7月, 11月～12月）セオリーコースとアプリケーションコースを交互に実施
※どちらか合格で「バーチャルリアリティ技術者」、両方で「上級バーチャルリアリティ技術者」の資格を取得

申

込

4月～7月, 9月～12月

受

験

料

学生非会員 3,500円 学生会員 2,500円

Webサイト

<https://vrsj.org/events/seminar>

試験会場

オンライン試験システム

内

容

VR技術者試験は、講習会と同様にセオリーコースとアプリケーションコースの2種類の試験があります。内容はそれぞれ、VR技術に関する基礎理論（セオリーコース）と、VR技術の応用に関するもの（アプリケーションコース）となっています。試験問題は全て記号選択回答であり、60%程度の正答率が合格の目安です。

レベル

バーチャルリアリティに関する知識が幅広く求められます。
本学の講義内容よりも広い範囲が対象となりますが、教科書にて学習を行えば、学生でも十分取得可能なレベルです。

学習の心得

日本バーチャルリアリティ学会が発行する教科書「バーチャルリアリティ学」から出題されるので、この教科書や公式サイトの過去問題を使い、学習していくと良いでしょう。

本学での対応科目・講座

3DCG、CGプログラミング

全体の合格率・合格者数

合格率は90%

MEMO

試験実施期間 3級は年3回程度実施

受験料 3級 9,100円（税込・手数料別途）
2級 16,000円（税込・手数料別途）

Webサイト <http://www.jmmpa.jp/>（日本医療経営実践協会ホームページ）

試験会場 在宅試験（IBT方式）

内容 5肢択一マークシート式での出題（50問・70分）。
2級は3級資格取得が前提。
詳細はWebサイトで確認してください。

レベル 3級、2級、1級の3段階
学生レベルは3級であるが、医療機関の経営部門・事務部門への就職を予定している人は3級合格後に2級を受験することが望ましい。

本学での対応科目・講座

3級対応：医療制度論、病院管理論、医療倫理概説、医療概論、医療経済学概論、医療マーケティング論

全体の合格率・合格者数

約40%
※合格後3年ごとの更新手続きが必要（更新手数料10,300円）

Webサイト <https://www.isbi.org/activity/nintei/>

内 容 試験の紹介等：Webサイトで確認してください。

試 験 会 場 Webサイトで確認してください。

受 験 料 6,000円（税込）

受 験 資 格 なし

実 施 日 2020年度よりCBT方式に以降。Webサイトで確認してください。

本学での対応科目・講座

生物学、分子栄養学、生化学、バイオインフォマティクス概論、バイオテクノロジー実習、
確率・統計Ⅰ・Ⅱ、コンピューターシステムⅠ・Ⅱ、プログラミング基礎演習Ⅰ・Ⅱ

日本漢字能力検定

(1級・準1級・2級・準2級)

主催団体：財団法人 日本漢字能力検定協会

試験実施期間 年3回実施 第1回 2025年 6月15日(日)
第2回 2025年10月19日(日)
第3回 2026年 2月15日(日)

申込 詳細についてはWebサイトを確認してください。

受験料 1級 6,000円(税込) 準1級 5,500円(税込)
2級 4,500円(税込) 準2、3、4級 3,500円(税込)

Webサイト <http://www.kanken.or.jp/index.php>

試験会場 北海道地区(札幌、旭川、函館、北見、帯広、小樽、千歳、苫小牧)

内容

1級

大学・一般程度
領域・内容

〈読むことと書くこと〉

常用漢字の音・訓を含めて、約6000字※の漢字の読み書きに慣れ、文章の中で適切に使える。

- 熟字訓、当て字を理解していること
- 対義語、類義語、同音・同訓異字などを理解していること
- 国字を理解していること(咏える、峯る など)
- 地名・国名などの漢字表記(当て字の一種)を知っていること
- 複数の漢字表記について理解していること(鹽一塩、颱風一台風 など)

〈四字熟語・故事・諺〉典拠のある四字熟語、故事成語・諺を正しく理解している。

〈古典的文章〉古典的文章の中で漢字・漢語を理解している。

※約6000字の漢字は、JIS第一・第二水準を目安とする。

準1級

大学・一般程度
領域・内容

〈読むことと書くこと〉

常用漢字の音・訓を含めて、約3000字※の漢字の読み書きに慣れ、文章の中で適切に使える。

- 熟字訓、当て字を理解していること
- 対義語、類義語、同音・同訓異字などを理解していること
- 国字を理解していること(峠、凧、畠 など)
- 複数の漢字表記について理解していること(國一國、交叉一交差 など)

〈四字熟語・故事・諺〉典拠のある四字熟語、故事成語・諺を正しく理解している。

〈古典的文章〉古典的文章の中で漢字・漢語を理解している。

※約3000字の漢字は、JIS第一水準を目安とする。

2級

高校卒業・大学・一般程度
領域・内容

〈読むことと書くこと〉

すべての常用漢字※の読み書きに習熟し、文章の中で適切に使える。

- 音読みと訓読みとを正しく理解していること
- 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること
- 熟語の構成を正しく理解していること
- 熟字訓、当て字を理解していること(海女/あま、玄人/くろうとなど)
- 対義語、類義語、同音・同訓異字などを正しく理解していること

〈四字熟語〉典拠のある四字熟語を理解している(鶏口牛後、呉越同舟など)

〈部首〉部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している

※常用漢字とは、平成22年11月30日付内閣告示による「常用漢字表」に示された2136字をいう。

準2級

高校在学程度
領域・内容

〈読むことと書くこと〉

1951字※の漢字の読み書きを習得し、文章の中で適切に使える。

- 音読みと訓読みとを正しく理解していること
- 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書けること
- 熟語の構成を正しく理解していること
- 熟字訓、当て字を理解していること（硫黄／いおう、相撲／すもう など）
- 対義語、類義語、同音・同訓異字を正しく理解していること

〈四字熟語〉典拠のある四字熟語を理解している（驚天動地、孤立無援など）。

〈部首〉部首を識別し、漢字の構成と意味を理解している。

※1951字とは、昭和56年10月1日付内閣告示による旧「常用漢字表」の1945字から「勺」「鍾」「銑」「脹」「匆」の5文字を除いたものに、現行の「常用漢字表」のうち、「茨」「媛」「岡」「熊」「埼」「鹿」「栃」「奈」「梨」「阪」「阜」の11字を加えたものを指す。

レベル

1級：常用漢字を含めて、約6000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。

準1級：常用漢字を含めて、約3000字の漢字の音・訓を理解し、文章の中で適切に使える。

2級：すべての常用漢字※を理解し、文章の中で適切に使える。

準2級：常用漢字のうち1951字※を理解し、文章の中で適切に使える。

学習の心得

日常生活の中で、できるだけ活字に触れる機会（時間）を多く持つよう心がけるとよいでしょう。読書は勿論のこと、毎日欠かさず新聞を読むなど、そうした習慣を身につけることで知らず知らずのうちに読み書きの力を高めることができます。漢字の読み書きのほか、四字熟語・故事成語・ことわざなどについては、漢字検定のための対策本（過去問題集）などを集中して学習するのも良いでしょう。最近、パソコンや携帯電話の普及にともない手書きする機会も減ってきているので、できるだけ文字や文章を手書きするよう心がけましょう。また、辞典（国語辞典・漢和辞典、英和辞典など）をこまめに引き（電子辞書でも良い）、言葉の意味を正しく把握し、正しい表記や適切な表現を用いるよう心がけることも大切です。

本学での対応科目・講座

検定対策の科目は特に設けてはいませんが、「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」で日本語の表記や表現について学ぶことができます。

全体の合格率・合格者数

2024 第1回	級	合格率	合格者数	受験者数	2023 第3回	級	合格率	合格者数	受験者数
	1級	5.9%	50人	843人		1級	5.7%	46人	810人
	準1級	25.7%	1,219人	4,739人		準1級	13.2%	631人	4,777人
	2級	26.4%	9655人	36,639人		2級	29.1%	10,666人	36,626人
	準2級	34.1%	20,431人	59,991人		準2級	39.2%	23,306人	59,512人

